

令和5（2023）年度

第6学年

学習の内容と評価



東京学芸大学附属国際中等教育学校

国語科 6学年 <現代文B>

6か年を通した目標

国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。

6学年の目標/伸ばしたい力

- ・ 作品を読み、身につけている知識を活用して、書かれている内容を理解する力。
- ・ 文章を読むだけでなく、人の話、さまざまなメディアからの情報を含めて、分析する力。
- ・ 自分の考えや心情、あるいは調査結果・報告・説明などを相手にわかりやすく伝えるための構成力。
- ・ 自分の考えを深めたり、他の人とよりよいコミュニケーションを図ったりするために、人の話やメディアからの情報を正確に捉え、情報を選択・整理する力。
- ・ 言語についての知識やそれを活用する技能。

〈評価基準別〉

規準 A 知識・理解：

- ・ 作品を読んで、構成・展開・要旨などを的確にとらえ、理解する力を身につける。
- ・ 作品を読んで批評することを通して、人間・社会・自然などについて主体的に考える力をつける。
- ・ 近代以降の文章や文学の変遷について、理解を深める。

規準 B 分析：

- ・ 作品の読解を通して、その作品を分析し、他の作品と比較する力、他の作品とのつながりを分析する力を身につける。

規準 C 構成：

- ・ 作品の読みを深めるために、自身の意見やアイデアを持続性、一貫性、及び論理性のある方法で整理する力を身につける。

規準 D 言語の使用：

- ・ 学年相当の語彙・文法知識を身につけ、適切に運用する力を身につける。

〈分野別〉

評論分野

- ・ 身近な例と抽象的な論理展開がどのように関わるのか、文脈に即して理解することを学ぶ。
- ・ 接続語や指示語に注意しながら、論理の展開をつかむことを学習する。

小説・随筆・韻文分野

- ・ 表現にそって登場人物の心の動きをたどり、作品全体の構造を把握することを学ぶ。
- ・ 今を生きる人間と、その置かれた状況との関わりを正しく把握する。

評価規準

- 規準 A 知識・理解 (10点)
- 規準 B 分析 (10点)
- 規準 C 構成 (10点)
- 規準 D 言語の使用 (10点)

評価方法

期末テスト・レポート・発表活動など
 期末テスト・レポート・発表活動など
 期末テスト・レポート・発表活動など
 期末テスト・レポート・漢字に関するテストなど
 ＊状況によって、評価材料の増減があり得ます。
 学期ごとに評価材料と評価基準についての説明を別紙で配布します。

学習内容

主に教科書『精選現代文 B 改訂版』（筑摩書房）を使用します。単元によっては別にプリントや教材を配ります。

評論分野

- ・ 明治以降の文章の読解。
- ・ 現代思想の用語についての理解。

小説・随筆・韻文分野

- ・ 明治以降の文章の読解。
- ・ 明治以降の韻文の解釈と鑑賞。
- ・ 明治以降の文章や文学の変遷についての理解。

国語科 6学年 <古典A>

6か年を通した目標

国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。

6学年の目標/伸ばしたい力

- ・ 作品を読み、身につけている知識を活用して、書かれている内容を理解する力。
- ・ 文章を読むだけでなく、人の話、さまざまなメディアからの情報を含めて、分析する力。
- ・ 自分の考えや心情、あるいは調査結果・報告・説明などを相手にわかりやすく伝えるための構成力。
- ・ 自分の考えを深めたり、他の人とよりよいコミュニケーションを図ったりするために、人の話やメディアからの情報を正確に捉え、情報を選択・整理する力。
- ・ 言語についての知識やそれを活用する技能。

〈評価基準別〉

規準A 知識・理解：作品の読解を通して、言葉や文章の意味・内容についての知識・理解力を身につける。

規準B 分析：作品の読解を通して、その作品を分析し、他の分野とのつながりに対する意識を持つ。

規準C 構成：作品の読みを深めるために情報を収集・活用し、客観的な根拠を持って筋道立てて自分の考えや意見を他者にわかりやすく伝える力を身につける。

規準D 言語の使用：古典に用いられている語句の意味・用法および文の構造を理解し、表現上の特色をとらえられるようにする。

〈分野別〉

古文

- ・ 古文の基礎知識を生かしながら、古代から近世までの様々な作品をより深く読めるようにする（含文法）。
- ・ 作品相互の時代的関連や影響関係および時代背景や当時の文化との関係を考えながら読解を進められるようにする。
- ・ 近代以降の文章との比較や関連する評論などをあわせて読み、古典から近代への継続性について学びを深める。

漢文

- ・ 漢文の基礎知識を生かしながら、深い理解に到達することをめざす。
- ・ 作品の舞台となった時代や場所について自ら調べたり、他教科の知識を生かしたりしながら、作品との影響関係を考えながら読解を進められるようにする。

古文・漢文共通

- ・ 作品に描かれた人物の行動や心情を通して、歴史の中に人間を探る。
- ・ 作品に表れた人間・社会・自然などに対する思想や感情を読み取り、ものの見方・感じ方・考え方を広げる。
- ・ 近現代のテキストとの比較を通して、通時的・共時的な特徴を探る。

評価規準

- 規準A 知識・理解 (10点)
- 規準B 分析 (10点)
- 規準C 構成 (10点)
- 規準D 言語の使用 (10点)

評価方法

期末テスト・小レポート・小テストなど
 期末テスト・小レポート・発表活動など
 期末テスト・小レポート・発表活動など
 期末テスト・小レポートや発表活動での言語表現
 ＊状況によって、評価材料の増減があり得ます。
 各学期に評価材料と評価基準についての説明を配布します。

学習内容

古文

- ・ 古代から近世の散文（物語・随筆・日記・評論）の読解
- ・ 八代集時代の和歌の理解と関連する歌論の読解
- ・ 近世の俳諧・俳文の読解 ・ 作品の歴史的背景と作品世界の関わりについての理解

漢文

- ・ 様々な時代、ジャンルの作品を読み、登場人物の行動のあり方や生き方について考察する。
- ・ 基本的な句法の確認および漢文訓読の力を身に付ける。
- ・ 中国の歴史や思想など、漢文読解のための常識的な事柄や知識を身に付ける。

国語科 6 学年 <古典 B>

6 年を通した目標

国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。

6 学年の目標/伸ばしたい力

- ・ 作品を読み、身につけている知識を活用して、書かれている内容を理解する力。
- ・ 文章を読むだけでなく、人の話、さまざまなメディアからの情報を含めて、分析する力。
- ・ 自分の考えや心情、あるいは調査結果・報告・説明などを相手にわかりやすく伝えるための構力。
- ・ 自分の考えを深めたり、他の人とよりよいコミュニケーションを図ったりするために、人の話やメディアからの情報を正確に捉え、情報を選択・整理する力。
- ・ 言語についての知識やそれを活用する技能。

〈評価基準別〉

規準 A 知識・理解：作品の読解を通して、言葉や文章の意味・内容についての知識・理解力を身につける。

規準 B 分析：作品の読解を通して、その作品を分析し、他の分野とのつながりに対する意識を持つ。

規準 C 構成：作品の読みを深めるために情報を収集・活用し、客観的な根拠を組み立てる力・筋道立てて自分の考えや意見を他者にわかりやすく伝える力を身につける。

規準 D 言語の使用：古典に用いられている語句の意味・用法および文の構造を理解し、表現上の特色をとらえられるようにする。

〈分野別〉

古文

- ・ 古文の語彙や文法など基礎知識を生かしながら、古代から近世までの様々な作品を読解する力を養う。
- ・ 作品の時代背景や当時の文化との関係および作品相互の関連を考えながら読解を進められるようにする。

漢文

- ・ 漢文の基礎知識を生かしながら、深い理解に到達することをめざす。
- ・ 作品について、他教科の知識も生かし、作品相互の影響関係を考えて読解を進められるようにする。

古文・漢文共通

- ・ 作品に描かれた人物の行動や心情を通して、歴史の中に人間を探る。
- ・ 作品に表れた人間・社会・自然などに対する思想や感情を読み取り、ものの見方・感じ方・考え方を広くする。

評価規準

- 規準 A 知識・理解 (10 点)
- 規準 B 分析 (10 点)
- 規準 C 構成 (10 点)
- 規準 D 言語の使用 (10 点)

評価方法

期末テスト・授業内小レポート・語句や文法に関する小テストなど
 期末テスト・授業内小レポートなど
 期末テスト・授業内小レポート・発表活動など
 課題の記述表現スキル・語句や文法に関する小テストなど
 ＊進捗の状況によって、評価材料の増減があり得ます。
 ＊観点別評価はその規準における到達度だと考えてください。
 学期末の 10 点評価・5 段階仮評定、学年末の 5 段階評定は、観点（規準）ごとの評価の合計ではなく、観点別評価のための材料となった課題にそれぞれ重みを付けて得点率を鑑みて決定します。観点別評価も参照して検討材料とします。

学習内容

古文

- ・ 古代から近世の散文（物語・随筆・日記・評論）の読解
- ・ 近世の俳諧・俳文の読解
- ・ 作品相互の時代的な関連や影響関係についての考察

漢文

- ・ 様々な時代、ジャンルの作品を読み、登場人物の行動のあり方や話のテーマについて考察する。
- ・ 重要な句法を確認し、漢文訓読の基本的な力を定着させる。
- ・ 中国の歴史や思想など、漢文読解のための常識的な事柄や知識を身に付ける。

国語科 6 学年 <国語表現>

6 か年を通した目標

国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。

6 学年の目標/伸ばしたい力

- ・ 社会背景を考えながら、他者の考えや思いを言語表現を通して、深く理解する力。
- ・ 文章を読むだけでなく、人の話、さまざまなメディアからの情報を含めて、読み取り、分析する力。
- ・ 自分の考えや心情、あるいは調査結果・報告・説明などを相手にわかりやすく伝える力。
- ・ 自分の考えを深めたり、他の人とよりよいコミュニケーションを図ったりするために、人の話やメディアからの情報を正確にとらえ、情報を選択・整理する力。
- ・ 言語についての知識やそれを活用する技能。

*上記のうち、特に表現する活動に重点を置き、書くこと・話すことを含め「表現する力」「伝えあい、分かり合う力」の伸長をめざす。

〈評価規準別〉

- 規準 A **知識・理解**: 書いたり話したりするために参考にする資料や文章の読解を通して言葉や文章の意味・内容について理解する力を身につける。
- 規準 B **分析**: 大量の情報や多様な考えを精査・分析し、課題に対して必要な情報や考えを見極める力を身につける。
- 規準 C **構成**: 自分の考えや意見を根拠をもって文章にまとめたり、話したりする。またそれを通して、筋道立ててわかりやすく伝える力、情報を整理する力をつける。
- 規準 D **言語の使用**: 表現と理解に必要な文法や語句、表現方法などを適切に身につける。

評価規準

- 規準 A 知識・理解 (10 点)
 規準 B 分析 (10 点)
 規準 C 構成 (10 点)
 規準 D 言語の使用 (10 点)

評価方法

調査・ディスカッション・プレゼンテーション・小論文・レポートなど。評価のための課題は学期や単元によって変わります。

各課題で用いる規準や配点は、ルーブリックとともに授業内で示します。

*課題の提出状況などが非常に重要になります。

*定期テストは原則として行いません。

*観点別評価の合計と課題の合計得点の両者を鑑みて最終的な評定を算出します。

学習内容

- ・ 様々な形式・内容の文章を書くことを通して、適切かつ効果的な表現について学ぶ。
- ・ ディスカッション、プレゼンテーション、スピーチなどを通して、口頭表現の技法や効果について学ぶ。
- ・ 多様で大量な情報を精査・分析し、課題解決のために適切で有効な情報や考えを調査や他者との話し合いを通じて見極める。
- ・ 聞き手・読み手の立場を考え、互いに「伝える」、互いに「理解する」ためには、どのように表現することが必要かを学ぶ。
- ・ 時事的な話題について正しい知識を持つとともに、その知識を活用して現代的な課題を読み解く。

*大学入試の志望理由書や入試小論文に特化した授業内容ではありません。注意してください。

国語科 6 学年 <日本語理解>

6 か年を通した目標

国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。

6 学年の目標/伸ばしたい力

後期課程編入生で、日本語を母語としない者のみを対象とする。日本語の文章を読み、日本語の能力を高めるとともに、日本の文化や伝統を理解することを目標とする。

- ・文章を読み、身につけている知識を活用して、書かれている内容を理解する力。
- ・複数の文章を比較し、文章どうしの関連を分析する力。
- ・自分の考えや心情、あるいは調査結果・報告・説明などを相手にわかりやすく伝える力。
- ・日本語についての知識やそれを活用する技能。

<評価規準別>

- 規準 A **知識・理解**：文章の読解を通して言葉や文章の意味・内容について理解する力を身につける。
- 規準 B **分析**：複数の文章を比較し、文章どうしの関連を分析する力を身につける。
- 規準 C **構成**：自分の考えや心情、あるいは調査結果・報告・説明などを、書くこと・話すことを通して相手にわかりやすく伝える力を身につける。
- 規準 D **言語の使用**：読解と表現に必要な文法や語句、表現方法などを適切に身につける。

評価規準

- 規準 A 知識・理解 (10 点)
- 規準 B 分析 (10 点)
- 規準 C 構成 (10 点)
- 規準 D 言語の使用 (10 点)

評価方法

- 演習・テスト・小論文など。
- 演習・テスト・小論文など。
- 演習・小論文など。
- 演習・テスト・小論文・漢字と語彙のテストなど。

材料は学期や単元によって変わる。
*各材料の配点は、授業内で示す。

学習内容

- ・様々な形式・内容の文章を読むことを通して、文章の読み方を学ぶ。
- ・様々な形式・内容の文章を書くことを通して、場合に応じた適切な文章の書き方を学ぶ。
- ・場所・相手・状況に応じた適切な話し方を学ぶ。
- ・読解と表現に必要な文法・漢字・語彙を学ぶ。
- ・日本語の文章を読むことを通して、日本の文化や伝統を理解する。

*履修者の日本語能力に応じて柔軟に対応する。

国語科 6 学年 DP <日本語 A 文学>

6 年を通した目標

国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。

6 学年の目標/伸ばしたい力

- ・異なる時代、スタイル（文体）およびジャンルの多様なテキストを読み解き、鑑賞する力
- ・個々のテキストを綿密かつ詳細に分析し、関連性のあるものと結びつけることができる力
- ・テキストの格調高さや様式的、美的な質の味わいを理解する力
- ・文化的背景の異なる人々の間で異なるものの見方があることや、それらの見方がどのように意味を構成しているかを認識する力
- ・文学作品を独自に批評する力と、そこに示す自分の考えを裏付け（根拠）に基づいて構成する力

〈評価規準別〉

規準 A 知識、理解、解釈：

- ・作品やテキストについて、理解する力を身につける。
- ・作品やテキストについての知識と理解を使用して、グローバルな問題に関する結論を導き出す。
- ・作品やテキストを参照し、裏づけとなる内容をもとに考えを深める。

規準 B 分析と評価：

- ・テキストの特徴や作者の選択に着目し、それらがどのように意味を形成するか分析する力を身につける。
- ・言語、技法、スタイルの選択に着目し、他の作品との比較を通して、それらの選択の持つ効果を分析する力を身につける。

規準 C 焦点と構成：

- ・自身の考えに一貫性を持たせ、焦点を絞って組み立て、効果的に構成する力を身につける。

規準 D 言語：

- ・学年相当の語彙・文法知識を身につけ、適切に運用する力を身につける。
- ・正確かつ明確であり、より多様な言葉遣いを身につける。

評価規準

※校内での規準

- 規準 A 知識・理解（10 点）
- 規準 B 分析（10 点）
- 規準 C 構成（10 点）
- 規準 D 言語の使用（10 点）

※IBDP での規準

- 規準 A 知識、理解、解釈
- 規準 B 分析と評価
- 規準 C 焦点と構成
- 規準 D 言語

評価方法

- レポート・発表活動など
- レポート・発表活動など
- レポート・発表活動など
- レポート・発表活動など

*状況によって、評価材料の増減があり得ます。
単元および学期ごとに評価材料と評価基準についての説明を別紙で配布します。

*6 年次の最終評価のために行う Mock（DP 模試）や IA・HL 小論文なども学校としての評価に含まれます。

*予測スコアについては、5 年次からの課題や発表、Mock、IA、HL 小論文などを含めて算出します。

学習内容

IB のガイドの定める方法によって扱う予定の作品を決めます。扱う予定の作品については、年度初めにリストを授業内で提示します。このリストや現代文 B・古典 B の教科書、リストに上がった作品に関する評論をもとに学習を進めます

社会科（地歴・公民科） 6 学年 <世界史 B>

6 か年を通した目標

- グローバル化が急速なスピードで進行している今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。
- 現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。

6 学年の目標/伸ばしたい力

先史時代から 18 世紀までの前近代世界史（含む近世）の展開過程を学習し、5 年次に〈世界史 A〉で学習した近現代史とあわせて、5・6 年の 2 年間で世界史を通史として理解できるようにします。また、現代の諸課題について様々な視点や立場から歴史的背景をふまえて考察できるような歴史的思考力を培うことを目標とします。なお、大学入試も意識しますが、国公立大学 2 次試験の論述問題にも対応できるよう、膨大な知識の詰め込みではなく、歴史事象の関連性や因果関係の方を重視した授業を展開します。

評価規準

評価方法

ISS 社会科（地歴・公民科）で 5 年生と 6 年生を対象に設定した次の 3 つの観点（評価規準）に基づいて評価します。なお、3 つの観点がそれぞれ 10 点満点で合計点が 30 点となることは社会科（地歴・公民科）共通です。3 つの観点を総合して、各学期の評価を 10 点法で、評定（仮評定も含む）を 5 段階で示します。

規準 A 知識と理解

A: 期末テストや授業中の学習活動等から、歴史的知識や歴史的意義に関する理解度を評価します。

規準 B 応用と分析

B: 期末テストや授業中の学習活動等から、歴史的な概念や歴史的データを適切に使い、資料に基づいて分析・考察することがどの程度できたかを評価します。

規準 C 知識の統合

C: 期末テストや授業中の学習活動等において、個々の学習事項や複数のデータを関連付けて、広い視野から考察することがどの程度できたかを評価します。

文部科学省 高等学校学習指導要領における教科の観点

上記の 3 観点は、文部科学省が高等学校における地理歴史科の評価の観点として定めている 4 観点と次のように対応しています。

関心・意欲・態度
思考・判断・表現
資料活用の技能
知識・理解

授業中の活動、エッセイ、課題等への取組みを総合的に判断して評価します。
上記の観点 B,C に対応します。
上記の観点 B,C に対応します。
上記の観点 A に対応します。

学習内容

<第 1 学期>

- 原始・古代の世界（先史の世界、オリエントと地中海世界、アジアの古代文明）
古代における各地域世界の形成をたどり、それぞれの歴史的性質について探り、古代文明が現代の社会にどのような影響をおよぼしているか考えていきます。
- 東アジア・西アジア世界の形成と発展（東アジア世界の形成と発展、イスラーム世界の形成と発展）
東アジアについては 10 世紀頃（唐末）まで、西アジアについては 15 世紀頃までの歴史について学習し、それぞれの地域世界がどのように形成され、発展し、現代の社会にどのような影響をおよぼしているか考えていきます。
△諸地域世界の交流（同時代のつながり） … 2 世紀の世界、8 世紀の世界

<第 2 学期>

- ヨーロッパ世界の形成と発展（東西ヨーロッパ世界の成立、西ヨーロッパ中世世界の変容、西ヨーロッパの中世文化）
中世ヨーロッパ世界の形成と発展について、時代区分しながらそれぞれの時代のヨーロッパ社会の性質について探ります。特に商業ルネサンスや 12 世紀のルネサンスについてはイスラーム世界との関わりを中心に考察し、世界史の中に中世ヨーロッパ世界を位置づけて考えていきます。
- アジア諸地域の繁栄（東アジア諸地域の自立化、モンゴル民族の発展、明・清代の中国、オスマン帝国・ムガル帝国の興隆）
東アジア世界については 11 世紀頃から 18 世紀まで、西アジア・南アジア世界については 16 世紀頃から 18 世紀までの歴史について学習し、アジアの諸帝国がどのようにそれぞれの地域世界を統治し、その支配のもとでどのような社会が形成されたのか探ります。
- 近代ヨーロッパの成立（ヨーロッパ世界の拡大、ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の形成と展開）
中世から近代への過渡期として 16 世紀から 18 世紀のヨーロッパ近世を位置づけ、その社会の性質を探っていきます。ヨーロッパ諸国の海外進出の動きを通して、世界史的なつながりの中でヨーロッパを捉えていきます。
△諸地域世界の交流（同時代のつながり） … 13 世紀の世界、16 世紀の世界

<第 3 学期>

- △時事問題の歴史的背景
時事問題からいくつかのテーマを取り上げ、歴史的背景をふまえて世界史的に考察します。

★ 詳細については第一回授業で配布する「世界史のしおり」を参照してください。

社会科（地歴・公民科） 6 学年 <世界史特講>

6 年を通した目標

- グローバル化が急速なスピードで進行している今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。
- 現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。

6 学年の目標/伸ばしたい力

19～20 世紀を中心とした近現代世界史について、5 年次に〈世界史 A〉で学習した内容を確認しつつ、より発展的な内容を取り上げて理解を深めていきます。また、〈世界史 B〉で学習する前近代史ともあわせて、現代の諸課題のうち世界史的背景をふまえて考察すべきテーマをいくつか取り上げ、歴史的思考力を培います。なお、大学入試も意識しますが、国公立大学 2 次試験の論述問題にも対応できるよう、膨大な知識の詰め込みではなく、歴史事象の関連性や因果関係の方を重視した授業を展開します。

評価規準

評価方法

ISS 社会科（地歴・公民科）で 5 年生と 6 年生を対象に設定した次の 3 つの観点（評価規準）に基づいて評価します。なお、3 つの観点がそれぞれ 10 点満点で合計点が 30 点となることは社会科（地歴・公民科）共通です。3 つの観点を総合して、各学期の評価を 10 点法で、評定（仮評定も含む）を 5 段階で示します。

規準 A 知識と理解	A: 期末テストや授業中の学習活動等から、歴史的知識や歴史的意義に関する理解度を評価します。
規準 B 応用と分析	B: 期末テストや授業中の学習活動等から、歴史的な概念や歴史的データを適切に使い、資料に基づいて分析・考察することがどの程度できたかを評価します。
規準 C 知識の統合	C: 期末テストや授業中の学習活動等において、個々の学習事項や複数のデータを関連付けて、広い視野から考察することがどの程度できたかを評価します。

文部科学省 高等学校学習指導要領における教科の観点

上記の 3 観点は、文部科学省が高等学校における地理歴史科の評価の観点として定めている 4 観点と次のように対応しています。

関心・意欲・態度 思考・判断・表現 資料活用の技能 知識・理解	授業中の活動、エッセイ、課題等への取組みを総合的に判断して評価します。 上記の観点 B,C に対応します。 上記の観点 B,C に対応します。 上記の観点 A に対応します。
--	--

学習内容

<第 1 学期>

○20 世紀の世界（1930 年代から 1989 年までの世界）

1930 年代から冷戦終結に至る世界の動きについて学習します。特に国際平和機構の成立と改編（国際連盟と国際連合）、冷戦の歴史的意義を整理し、20 世紀の特質を探っていきます。

<第 2 学期>

○21 世紀の世界（冷戦終結後の世界）

～冷戦終結後から現在にいたる世界の動きについて学習します。

○上記の時代を超えてテーマ史を扱い、世界史 A で学習した既習事項を関連付けて整理していきます。

<第 3 学期>

○18 世紀から 21 世紀までの世界に関する問題演習

社会科（地歴・公民科） 6 学年 <日本史 B>

6 か年を通した目標

- グローバル化が急速なスピードで進行している今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。
- 現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。

6 学年の目標/伸ばしたい力

日本前近代史（原始古代・中世・近世）について学習します。様々な資料・史料を読解し、それらをもとに歴史的な思考を育み、当時の政権がとった政策や事柄の歴史的意義について、互いの意見をかわし、論議を深めていく力を養うことを目的とします。

思考力とともに、論理的にアウトプット・表現できる力（エッセイ・小論文等の論述等）を身につけます。

評価規準

評価方法

ISS 社会科（地理歴史科・公民科）では、5 年生と 6 年生を対象に設定した次の 3 つの観点（評価規準）に基づいて評価します。なお、3 観点の合計点は 30 点です。3 つの観点を総合して、各学期の評価を 10 点法で、学年の評定を 5 段階で示します。

規準 A 知識と理解（10 点）

A: 平常テスト、授業中の学習活動・課題等から、歴史的知識に関する理解度および活用の程度を評価します。

規準 B 応用と分析（10 点）

B: 平常テスト、授業中の学習活動・課題等から、関連度の高い歴史的知識を応用し、分析を裏付けたり、様々な史資料分析し、解釈できているかを評価します。

規準 C 知識の統合（10 点）

C: 平常テスト、授業中の学習活動・課題や調査において、情報を統合し活用できたかを評価します。

文部科学省 高等学校学習指導要領における教科の観点

上記の 3 観点は、文部科学省が高等学校における地理歴史科の評価の観点として定めている 4 観点と次のように対応しています。

関心・意欲・態度
思考・判断・表現
資料活用の技能
知識・理解

授業中の活動、エッセイ、課題等への取組みを総合的に判断して評価します。
上記の観点 B・C に対応します。
上記の観点 B・C に対応します。
上記の観点 A に対応します。

学習内容

日本前近代史について、政治・経済・外交・文化等の側面から学習していきます。

教科書：詳説日本史 B（山川出版社）

資料集：新詳日本史（浜島書店）

史料集：新詳述 日本史史料集（実教出版）

主な学習内容は、以下の通りです。

< 第 1 学期 >

現代および原始・古代 ～ 中世（鎌倉時代）

< 第 2・3 学期 >

中世（室町時代）～ 近世

※詳細な学習内容については、授業で提示します。

社会科（地歴・公民科） 6 学年 <日本史特講>

6 か年を通した目標

- グローバル化が急速なスピードで進行している今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。
- 現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。

6 学年の目標/伸ばしたい力

日本史 A・日本史 B で得た知識や読解力、思考力を統合して、歴史事象を包括的に把握する力、記述する力を養います。
大学入試を意識して演習なども予定していますが、知識の暗記にとどまらない形になります。

評価規準

評価方法

ISS 社会科（地理歴史科・公民科）で 5・6 年生を対象に設定した次の 3 つの観点に基づいて評価します。3 つの観点を総合して、各学期の評価を 10 点法で、学年の評定を 5 段階で示します。

観点 A	知識と理解 (10 点)	A: 授業期間中の平常テスト、授業中の学習活動・課題等から、歴史的知識に関する理解度および活用の程度を評価します。
観点 B	応用と分析 (10 点)	B: 授業中の学習活動や課題レポートにおいて、地図や資料（史料、統計資料、映像資料、絵画資料等）を適切に読み取って考察したり、論点を整理したりすることがどの程度できたかを評価します。
観点 C	知識の統合 (10 点)	C: 授業期間中の平常テスト、授業中の学習活動・課題レポート等から、知識を統合したうえで歴史事象に対する説明がどの程度適切にできたかを評価します。

学習内容

教科書：詳説日本史 B（山川出版社）
資料集：新詳日本史（浜島書店）
史料集：新詳述 日本史史料集（実教出版）

文化や外交などテーマ史を中心とした学習を進めていきます。
主な学習内容は、以下の通りです。

○テーマ史学習

日本史 B の内容と関連させ、文化史を中心に史料も扱いながら内容の理解を深めます。

○問題演習

テーマ史の学習とともに、大学入試問題の演習を行います。

※詳細な学習内容については、授業で提示します。

社会科（地歴・公民科）6学年 <地理B>

6か年を通した目標

- グローバル化が急速なスピードで進む今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つことをめざします。
- 現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけ、多面的多角的に考え、自分のことばで表現していく力を培います。

6学年の目標/伸ばしたい力

本校の地理歴史科では4年次および6年次の2年間で地理を学習します。そのうち、6年次では地理学における「系統地理」分野と「地誌」分野の内容を、以下の3つを目標とし学習を進めます。

- 世界の様々な地理的事象や地域の特徴を理解することで、幅広い知識と教養を身につける。
- 世界と私たちとの様々な結びつきを見いだす能力を身につける。
- 様々な視点からものごとを考える能力を身につける。

地理的な考え方を身につけるとともに、論理的にアウトプットできる力（スピーチ・エッセイ・小論文等の論述等）を身につけます。

評価規準

評価方法

ISS社会科（地歴・公民科）で5年生と6年生を対象に設定した次の3つの観点（評価規準）に基づいて評価します。なお、3つの観点がそれぞれ10点満点で合計点が30点であることは社会科（地歴・公民科）共通です。3つの観点を総合して、各学期の評価を10点法で、学年の評定を5段階で示します。

規準A 知識と理解

A：テストや授業中の学習活動・課題等から、基本的な地理的知識に関する理解度および活用の程度を評価します。

規準B 応用と分析

B：テストや授業中の学習活動・課題等から、地理的な概念やデータを適切に用いてどの程度分析・考察することができたかを評価します。

規準C 知識の統合

C：テストや授業中の学習活動・課題等から、複数の学習事項や地理的データを関連付けて、広い視野から考察することがどの程度できたかを評価します。

文部科学省 高等学校学習指導要領における教科の観点

上記の3観点は、文部科学省が高等学校における地理歴史科の評価の観点として定めている4観点と次のように対応しています。

関心・意欲・態度
思考・判断・表現
資料活用の技能
知識・理解

授業中の活動、エッセイ、課題等への取り組みを総合的に判断して評価します。
上記の観点B・Cに対応します。
上記の観点B・Cに対応します。
上記の観点Aに対応します。

学習内容

※地図帳および資料集は4年次に購入ものを引き続き使用し、必要な副教材は追加購入します。

使用教科書 新詳地理B（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院・4年次に使用したもの）

使用副教材 資料集…新詳地理資料 COMPLETE2021（帝国書院・4年次に使用したもの）
統計資料…データブック・オブ・ザ・ワールド 2023（二宮書店）

【1学期】

- 自然環境 ◆地形（海岸地形、氷河地形、乾燥地形、石灰岩地形、サンゴ礁） ◆植生と土壌
- 資源と産業 ◆農林水産業〔第1次産業〕
◆鉱工業〔第2次産業〕（発達過程、立地とその変化）
- 地誌 ◆アジア（東アジア、東南アジア、南アジア、西アジア・中央アジア）
◆アフリカ

【夏期休業】（集中講義を実施予定）

- ◆日本地誌 ◆人口 ◆貿易 …など

【2・3学期】

- 資源と産業 ◆第3次産業（観光業、商業、交通・通信）
- 民族・宗教 ◆民族と宗教 ◆民族・領土問題
- 地誌 ◆ヨーロッパ ◆ロシアと周辺諸国
◆アングロアメリカ ◆ラテンアメリカ ◆オセアニア
- 村落と都市 ◆村落（集落の立地と発達、村落の形態）
◆都市（都市の立地と発達、都市機能、都市の内部構造、都市問題）

※学習内容の順序は諸般の事情によって、変更されることがあります。

社会科（地歴・公民科） 6 学年 <地理特講>

6 か年を通した目標

- グローバル化が急速なスピードで進む今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つことをめざします。
- 現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけ、多面的多角的に考え、自分のことばで表現していく力を培います。

6 学年の目標/伸ばしたい力

地理 A・地理 B で得た知識や地理的思考力を駆使して、地理的事象と関連した諸課題について、分析・考察し的確にアウトプットできるようにトレーニングしていきます。図表や統計の読み取り、レジュメ作成など基礎的な能力を身につけながら、地理的事象を包括的に把握する力、発信する力を養います。大学入試を意識して演習なども予定していますが、知識の暗記にとどまらない形になります。

評価規準

評価方法

ISS 社会科（地歴・公民科）で 5 年生と 6 年生を対象に設定した次の 3 つの観点（評価規準）に基づいて評価します。なお、3 つの観点がそれぞれ 10 点満点で合計点が 30 点であることは社会科（地歴・公民科）共通です。3 つの観点を総合して、各学期の評価を 10 点法で、学年の評定を 5 段階で示します。

規準 A 知識と理解

A：テストや授業中の学習活動・課題等から、基本的な地理的知識に関する理解度および活用の程度を評価します。

規準 B 応用と分析

B：テストや授業中の学習活動・課題等から、地理的な概念やデータを適切に用いてどの程度分析・考察することができたかを評価します。

規準 C 知識の統合

C：テストや授業中の学習活動・課題等から、複数の学習事項や地理的データを関連付けて、広い視野から考察することがどの程度できたかを評価します。

文部科学省 高等学校学習指導要領における教科の観点

上記の 3 観点は、文部科学省が高等学校における地理歴史科の評価の観点として定めている 4 観点と次のように対応しています。

関心・意欲・態度
思考・判断・表現
資料活用の技能
知識・理解

授業中の活動，エッセイ，課題等への取組みを総合的に判断して評価します。
上記の観点 B・C に対応します。
上記の観点 B・C に対応します。
上記の観点 A に対応します。

学習内容

主な学習内容は、以下の通りです。

【1 学期】

- ◆地理的思考力を用いた課題発見・解決トレーニング
- ◆系統地理分野における分析・考察トレーニング

【2・3 学期】

- ◆読図トレーニング
- ◆地誌分野における分析・考察トレーニング

※詳細な学習内容については、履修者と相談しながら調整します。

社会科（地歴・公民科） 6 学年 <倫理>

6 年を通した目標

- グローバル化が急速なスピードで進行している今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。
- 現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。

6 学年の目標/伸ばしたい力

「2030 年の未来に、どのように関わり、より良い人生を送るのか?」。これを本質的な問いとして設定し、「自己と向き合い、他者とつながる中で、より良い未来にしたいと願う市民性」(公民的資質)を養うことが、本校公民科の目標である。

人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力、間を楽しみ、共に考える姿勢を養いたい。先人の思想や英知を学ぶことによって、現代社会の目指すべきかたちや、人間が善く生きるとはという根源的な問いに向かい合う中で自分自身のあるべき姿を追い求めていきたい。

評価規準

評価方法

ISS 社会科(地歴・公民科)で一般プログラム選択者の5年生と6年生を対象に設定した次の3つの観点(評価規準)に基づいて評価します。なお、3観点の合計点が30点であることは社会科(地歴・公民科)共通です。3つの観点を総合して、各学期の評価を10点法で、学年の評定(6年生では1学期末と2学期末の仮評定も含む)を5段階で示します。

規準 A 知識と理解 (10点)

規準 B 応用と分析 (10点)

規準 C 知識の統合 (10点)

A: 定期試験や授業中の学習活動等から、倫理に関する知識に対する理解度を評価します。

B: 定期試験や授業中の学習活動等から、倫理に関する知識や思想を分析することがどの程度できたかを評価します。

C: 定期試験や授業中の学習活動等から、知識や思想を比較したり、論点を整理したりすることがどの程度できたかを評価します。

学習内容

基本的には、教科書『倫理』(東京書籍)を使用します。担当教員が作成した学習プリントを補助教材として使用します。

おもな学習内容は、以下のとおりです。

- 青年期の課題と自己形成・・・ 青年期の意義、課題、生き方
～大人になるってどういうことか? モラトリアムの意義とは?アイデンティティとは?無意識を覗こう。フランクルの『夜と霧』
- 人間としての自覚・・・ 古代思想、宗教、芸術
～古代ギリシャの哲学、ソクラテス、プラトン、アリストテレス。「善く生きる」とはどのようなことなのか?キリスト教、イスラーム、仏教など宗教についても学問として学び、人間とは何かについて考えます。
- 現代を生きる人間の倫理 I・・・ ルネサンス期以降の欧米思想
～人間の尊厳を重視する中で、ヨーロッパを中心とした様々な思想を学習します。
ルネサンスと人間解放、知は力なり、帰納法、演繹法、ロックとホブズ、ルソーの社会契約説、カントとヘーゲルの観念論、ベンサム功利主義、なすことによって学ぶプラグマティズム、社会主義思想、キルケゴールとニーチェなどの実存主義、ヤスパース、ハイデッガーなどの危機の時代の実存主義、フェミニズム、構造主義、ロールズの正義論、
- 国際社会に生きる日本人の自覚・・・ 日本人の精神風土、仏教・儒教思想、近現代の日本人の思想
- 現代の諸課題・・・ 生命倫理、環境倫理、グローバル化

社会科（地歴・公民科） 6 学年 <政治・経済>

6 か年を通した目標

- グローバル化が急速なスピードで進行している今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。
- 現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。

6 学年の目標/伸ばしたい力

「2030 年の未来に、どのように関わり、より良い人生を送るのか?」。これを本質的な問いとして設定し、「自己と向き合い、他者とつながる中で、より良い未来にしたいと願う市民性」(公民的資質)を養うことが、本校公民科の目標である。

現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想する活動を通して、グローバル化する国際社会において主体的に生きる社会の有為な形成者としての資質・能力を育成したい。3 学年の「社会 (公民分野)」、4 学年の「現代社会 (公共)」の内容をさらに深化・発展させ、政治・経済に関する現代的諸課題を深く掘り下げていきたい。

評価規準

評価方法

ISS 社会科 (地歴・公民科) で5 年生と6 年生を対象に設定した次の3 つの観点 (評価規準) に基づいて評価します。なお、3 つの観点がそれぞれ 10 点満点で合計点が 30 点となることは社会科 (地歴・公民科) 共通です。3 つの観点を総合して、各学期の評価を 10 点法で、評定 (仮評定も含む) を5 段階で示します。

規準 A 知識と理解

A: 定期試験や授業中の学習活動等から、政治・経済に関する知識に対する理解度を評価します。

規準 B 応用と分析

B: 定期試験や授業中の学習活動等から、政治・経済に関する知識や制度を分析することがどの程度できたかを評価します。

規準 C 知識の統合

C: 定期試験や授業中の学習活動等から、知識や制度を比較したり、論点を整理したりすることがどの程度できたかを評価します。

文部科学省 高等学校学習指導要領における教科の観点

上記の3 観点は、文部科学省が高等学校における地理歴史科の評価の観点として定めている4 観点と次のように対応しています。

関心・意欲・態度
思考・判断・表現
資料活用
の技能
知識・理解

授業中の活動、エッセイ、課題等への取組みを総合的に判断して評価します。
上記の観点 B,C に対応します。
上記の観点 B,C に対応します。
上記の観点 A に対応します。

学習内容

担当教員が作成した学習プリントを用い、映像資料なども活用して学習していきます。
おもな学習内容は、以下のとおりです。

○グローバル化する国際社会の諸課題

- ・国際政治や世界経済など、主として国際社会に関する諸課題
比較生産費説、国際収支、為替相場のしくみおよび戦後国際政治の変遷など
- ・グローバル化する国際社会の諸課題の探究
例として、グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容、地球環境と資源・エネルギー問題、イノベーションと成長市場、人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取り組み、持続可能な国際社会づくりなど

○現代日本における政治の諸課題

政治と法の意義と機能や議会制民主主義、国民主権と政治機構など

○現代日本における経済の諸課題

経済社会と経済体制、現代経済の仕組みと特質、日本経済のあゆみと現状など

○現代日本における政治・経済の諸課題の探究

例として、少子高齢化社会における社会保障の充実・安定化、地域社会の自立と政府、産業構造の変化と起業、歳入・歳出両面での財政健全化、防災と安全・安心な社会の実現など

社会科（地歴・公民科） 6 学年 <DP 歴史>

6 か年を通した目標

- グローバル化が急速なスピードで進行している今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。
- 現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。

DP 歴史の 2 年間（5～6 学年）の目標/伸ばしたい力

DP 歴史では、世界史を古代から現代まで広く取り上げるのではなく、いくつかのテーマを選んで深く探究していくこととなります。本校では、20 世紀の世界史に関わるテーマを取り上げます。また、HL 選択項目としては四つの地域世界のうちヨーロッパ世界を中心に学習していきます。様々な史資料の分析、調査、プレゼンテーション、議論、エッセイライティングを通して歴史的思考力を高めていきます。

評価規準

評価方法

DP 歴史の次の 4 つの評価目標（評価規準、観点）に基づいて評価します。4 つの観点の合計点は 40 点です。4 つの観点を総合して、各学期および学年の DP 評価を 7 段階で、学年の評定を 5 段階で示します。

規準 A 知識と理解
(10 点)

規準 B 応用と分析
(10 点)

規準 C 知識の統合と評価
(10 点)

規準 D 適切なスキルの活用と応用
(10 点)

下記の①～④の 4 つの評価対象によって評価します。①～④のそれぞれについて、A～D の観点ごとに点数化し、換算表によって 7 段階評価および 5 段階評定を算出します。

①各学期に実施するテスト … DP 最終試験の形式に準拠したテスト。Paper 1 は資料分析とエッセイライティング、Paper 2 と Paper 3 はエッセイライティングです。

②模試 … 6 年次 8 月後半に DP 最終試験の形式に則って実施します。

③IA（内部評価）の歴史研究の Final Draft（最終稿）

④その他、学習状況全般：

文部科学省 高等学校学習指導要領における教科の観点

上記の 4 観点は、文部科学省が高等学校における地理歴史科の評価の観点として定めている 4 観点と次のように対応しています。

関心・意欲・態度
思考・判断・表現
資料活用の技能
知識・理解

授業中の活動、エッセイ、課題等への取組みを総合的に判断して評価します。

上記の観点 B・C・D に対応します。

上記の観点 B・C・D に対応します。

上記の観点 A に対応します。

学習内容

<1 学期>

○冷戦：第二次世界大戦後の世界

…Paper 2-12「冷戦：超大国間の緊張と対立（20 世紀）」の内容を中心にして、Paper 3-17「大戦後の西および北ヨーロッパ（1945～2000 年）」および Paper 2-11「20 世紀の戦争の原因と結果」の内容ともオーバーラップさせながら、第二次世界大戦後の世界の動きを取り上げて、様々な観点から比較・対比し、歴史的な評価を加えていきます。主なテーマ（視点）は次の通りです。

- ・対立関係、不信、和解 … 同盟の破綻と超大国間対立の出現、対立と和解、冷戦終結の理由、など
- ・指導者と国家 … 指導者が冷戦の過程に及ぼした影響、冷戦の緊張が各国に及ぼした影響、など
- ・冷戦が引き起こした危機の事例研究 … 危機の原因、影響、重要性の考察と比較（ベルリン危機、キューバ危機、など）

<2 学期>

○戦後の西ヨーロッパに関する事例研究

…Paper 3-17「大戦後の西および北ヨーロッパ（1945～2000 年）」の内容を中心に、1 学期に取り上げた冷戦期の西ヨーロッパについて、ドイツ・フランス・スペイン・イギリスの 4 か国を事例として取り上げ、様々な視点から第二次世界大戦後の歴史について検証を加えていきます。

○20 世紀世界史に関するいくつかの論点および歴史的意義の検討

…11 月の最終試験に向けて、5 年次から取り上げてきた 20 世紀世界史に関して Paper 1～3 で要求される探究課題にそって検討していきます。

○テーマ学習

…「世界史 A」のうちこれまでの DP 歴史の授業で扱えなかったテーマや、世界の諸課題（時事問題）について取り上げます。発表者は歴史的に考察できるテーマを選び、探究課題を提示し、クラス全体で議論していきます。

<第 3 学期>

○テーマ学習 ★詳細については「DP 生徒用ガイド：History HL」を参照してください。

数学科 6 学年 <数学Ⅲ／数学特講 a・b・c・IM>

6 年を通した目標

6 年を通して、次のことを目標とし、学習を進めます。

国際社会の一員として、適切に判断し行動できる人間になるために、
 数学的リテラシーを育むとともに、数学に対する興味・関心を高め、豊かな感性を養う。

「数学的リテラシー (Mathematical literacy)」とは、たとえば、次のような力です。

- 様々な文脈において、数学的に問題を解決する力
- 数学的に推論したり、数学的根拠に基づき意思決定したりする力
- 事象を描写したり説明したり予測したりするために数学を利用する力
- 数学が世界で果たす役割を見出す力

授業では、この目標を実現するために、また、数学教育の国際的な動向に目を向け、本校独自のテキスト『TGUISS 数学』を使用しながら、次のような活動を重視していきます。

- 実社会の問題を、数学の問題に直し、数学的に処理し、得られた解をもとの問題場面に照らして解釈する活動
- グラフ電卓やパソコン等を積極的に活用した探究活動
- 数学を使い、つくる活動

6 年次では、「数学Ⅲ」(5 単位)、「数学特講 a」(4 単位)、「数学特講 b」(2 単位)、「数学特講 c」(3 単位)、「数学特講 IM」(2 単位)、DP 数学 (3 単位) の 6 科目を開講します。6 年次では特に、現実や数学の事象を解決し、その過程を振り返って活動を整理することによって、新たな数学の知識や方法を構築する力の育成を目指します。

6 学年の目標/伸ばしたい力

学習内容や数学的プロセスに基づき、継続的に以下の力の育成を図っていきます。

- 様々な文脈において、数学的に問題を解決する力
- 数学的に推論したり、数学的根拠に基づき意思決定する力
- 事象を描写したり説明したり予測したりするために数学を利用する力
- 数学が世界で果たす役割を見出す力

評価規準

数学Ⅲ

- 規準 A 知識・技能
- 規準 B プロセスと振り返り
- 規準 C 数学的コミュニケーション
- 規準 D 学習への取り組み

数学特講 a・b・c・IM

- 規準 A 数学の運用/ Usage of mathematics
- 規準 B 学習への取り組み/ Attitude for learning

評価方法

数学Ⅲ

規準 A 知識・技能

数学の知識とスキル (技能) に関する理解について、主に筆記テストを通して、評価します。

規準 B プロセスと振り返り

現実場面の問題を数学的モデルを用いて解決したり、数学の事象の中から問題を見出した力、またそれらプロセスを振り返り統合的・発展的に考えていく力を、レポートや筆記テスト等を通して、評価します。

規準 C 数学的コミュニケーション

適切な数学の記号と言語を用いて、事実、概念、手法、結果、結論を伝える力を、レポートや筆記テスト等を通して、評価します。

数学特講 a・b・c/IM

規準 A 数学の運用/ Usage of mathematics

さまざまな問題を数学を使って解決する力を主に筆記テストを通して評価します。

共通

規準 D/B 学習への取り組み/ Attitude for learning

数学の学習への取り組みを、授業での活動や提出物等を通して、評価します。

学習内容

数学Ⅲ

『TGUISS 数学5・6』と『数学Ⅲ 新訂版』使用しながら、次のような学習を行います。

① 極限と微分法 [4月～5月]

数学Ⅱの学習を基にして、極限観念の理解をより深め、さまざまな関数や事象の考察・処理に活かすことができるようにします。

(主な学習内容) 数列の極限, 逆関数と合成関数, 関数の極限と連続性, 微分可能と連続, 積・商の微分法, 合成関数と逆関数の微分法, 三角関数・対数関数・指数関数の導関数, 高次導関数

② 微分法の応用 [5月～7月]

具体的な事象の考察を通して、微分に対する理解を深めるとともに、より広範囲にわたる事象の考察・処理に活かすことができるようにします。

(主な学習内容) 接線の方程式, 平均値の定理, 関数の増減, グラフの凹凸, 第2次導関数と極大・極小媒介変数表示, 速度と加速度, 関数の近似式, 微分方程式

③ 積分法とその応用 [9月～10月]

具体的な事象の考察を通して、積分に対する理解を深めるとともに、より広範囲にわたる事象の考察・処理に活かすことができるようにします。

(主な学習内容) 不定積分, 置換積分法と部分積分法, 定積分, 定積分と微分, 区分求積法と定積分, 面積, 体積, 回転体の体積, 曲線の長さ

④ 複素数平面 [11月～]

複素数平面を用いて複素数を図表示し、複素数の演算や方程式の解の幾何学的な意味を理解し、平面図形への応用を通して複素数を事象の考察に活用できるようにします。

(主な学習内容) 複素数平面, 複素数の極形式, ド・モアブルの定理, 平面図形と複素数

数学特講 IM

1年間を通して、SAT Math Level2の演習を中心に扱いますが、履修者の実態に応じて、数学を活用して問題を解決する力を養う授業を展開します。

数学特講 a・b・c

1年間を通して、数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの問題演習を行います。

※授業進度や実態に応じて順番を入れ替えたり、内容を加えたりする可能性があります。

【評価に関する詳細】

[数学Ⅲ]

各学期の10段階評価は以下の要領で算出します。

- 観点A 知識・技能 : 6点満点
- 観点B プロセスと振り返り : 6点満点
- 観点C 数学的コミュニケーション : 6点満点
- 学習への取り組み : 2点満点

以上、計20点満点を以下の表に従って、10段階に集約します。

20点満点中	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
10段階評価	1		2		3		4		5		6		7		8		9			10	

《各観点のルーブリック》

観点	A 知識・技能	B プロセスと振り返り		C 数学的コミュニケーション
		B1	B2	
目的	数学的概念を理解し、計算などの数学的操作を行うことができる。	現実の問題を解決するために、定式化、処理、解釈・評価のプロセスを踏むことができる。	数学の事象からパターンや性質などを見だし、確かめ、発展させることができる。	数学的表現を用いて、積極的に、豊かに他者とコミュニケーションすることができる。
満点	6	6		6
5-6	数学的概念を十分に理解し、計算などの数学的操作を十分に行うことができる。	現実の問題を数学的に解決可能な問題に直し、適切な数学的処理に基づいて結論を導くことができ、解決過程および結論について振り返り、評価することができる。	数学の事象からパターンや性質などを見だし、それが成り立つことを証明し、発展させることができる。	正確な数学的表現や記号を効果的に用いることができる。適切な推論を行い、自分の考えをわかりやすく説明することができる。他者の考えに対して、適切な根拠に基づき、自分の意見を述べるができる。
3-4	数学的概念を概ね理解し、計算などの数学的操作を概ね行うことができる。	現実の問題を数学的に解決可能な問題に直し、適切な数学的処理に基づいて結論を導くことができる。	数学の事象からパターンや性質などを見だし、それが成り立つことを説明することができる。	正確な数学的表現や記号を用いることができる。適切な推論を行い、自分の考えを説明している。他者の考えに対して、自分なりの根拠に基づき、自分の意見を述べることができる。
1-2	数学的概念をある程度理解しており、計算などの数学的操作を行うことができる。	現実の問題を数学の問題に直している。	数学の事象からパターンや性質などを見いだすことができる。	数学的表現や記号を用いている。推論を行い、自分の考えを説明している。他者の考えに対して、自分の意見を述べる。
0	上記以外	上記以外	上記以外	上記以外

[数学特講 a・b・c・IM]

各学期の10段階評価は以下の要領で算出します。

- 観点A 数学の運用 : 8点満点
- 観点B 学習への取り組み : 2点満点

以上、計10点満点を以下の表に従って、10段階に集約します（ルーブリックは無し）。

10点満点中	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
10段階評価	1		2		3		4		5		6	

※どの科目も学年末（卒業認定）の5段階評定に関しては、各学期の観点の点数を基に総合的に判断します。
 ※「学習への取り組み」は、授業態度や提出物の状況、数学に対する意欲・関心などから総合的に評価します。

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>6 年を通して、次のことを目標とし、学習を進めます。</p> <p>国際社会の一員として、適切に判断し行動できる人間になるために、 数学的リテラシーを育むとともに、数学に対する興味・関心を高め、豊かな感性を養う。</p> <p>授業では、この目標を実現するために、また、数学教育の国際的な動向に目を向け、本校独自のテキスト『TGUISS 数学』を使用しながら、次のような活動を重視していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 実社会の問題を、数学の問題に直し、数学的に処理し、得られた解をもとの問題場面に照らして解釈する活動 • グラフ電卓やパソコン等を積極的に活用した探究活動 • 数学を使い、つくる活動 <p>特に、現実や数学の事象を解決し、その過程を振り返って活動を整理することによって、新たな数学の知識や方法を構築する力の育成を目指します。</p>	
数学特講イメージン B の目標/伸ばしたい力	
<p>将来的に海外の大学進学希望者で AP Calculus の受験を必要とする生徒に対しての学習と演習を目的とし、また英語で secondary level の数学を学ぶ機会を提供する。</p>	
観点別評価	
<p>観点は以下のような方法で評価を行います</p>	
<p>観点 A 数学の運用 : 8 点満点</p> <p>観点 B 学習への取り組み : 2 点満点</p>	<p>AP Calculus の問題を中心としたさまざまな数学問題を用いた筆記テストや数学探究への取組を通して、評価します。</p> <p>数学探究への取組や数学の学習への取組を通して評価します。</p>
使用教材	
<p>教材 : AP Calculus (Barron's)</p> <p>DP Mathematics SL (Haese mathematics)</p> <p>数学Ⅱ, 数学 B, 数学Ⅲ (科目「数学Ⅱ」「数学 B」「数学Ⅲ」で使用するもの)</p>	
学習内容	
<p>Exercises for AP Calculus</p> <p>Mathematical explorations</p>	
備考 (後期課程のみ)	
<p> </p>	

数学科 6年<DP Mathematics Applications and Interpretation SL>

6か年を通した目標

6カ年を通して、次のことを目標とし、学習を進めます。

国際社会の一員として、適切に判断し行動できる人間になるために、
数学的リテラシーを育むとともに、数学に対する興味・関心を高め、豊かな感性を養う。

「数学的リテラシー (Mathematical literacy)」とは、たとえば、次のような力です。

- 様々な文脈において、数学的に問題を解決する力
- 数学的に推論したり、数学的根拠に基づき意思決定したりする力
- 事象を描写したり説明したり予測したりするために数学を利用する力
- 数学が世界で果たす役割を見出す力

授業では、この目標を実現するために、また、数学教育の国際的な動向に目を向け、本校独自のテキスト『TGUISS 数学』を使用しながら、次のような活動を重視していきます。

- 実社会の問題を、数学の問題に直し、数学的に処理し、得られた解をもとの問題場面に照らして解釈する活動
- グラフ電卓やパソコン等を積極的に活用した探究活動
- 数学を使い、つくる活動

6年次では、「数学Ⅲ」(5単位)、「数学特講 a」(4単位)、「数学特講 b」(2単位)、「数学特講 c」(3単位)、「数学特講 IM」(2単位)、DP 数学(3単位)の6科目を開講します。6年次では特に、現実や数学の事象を解決し、その過程を振り返って活動を整理することによって、新たな数学の知識や方法を構築する力の育成を目指します。

DP Group 5(Mathematics) aims

The aims of all DP mathematics courses are to enable students to:

1. develop a curiosity and enjoyment of mathematics, and appreciate its elegance and power
2. develop an understanding of the concepts, principles and nature of mathematics
3. communicate mathematics clearly, concisely and confidently in a variety of contexts
4. develop logical and creative thinking, and patience and persistence in problem solving to instil confidence in using mathematics
5. employ and refine their powers of abstraction and generalization
6. take action to apply and transfer skills to alternative situations, to other areas of knowledge and to future developments in their local and global communities
7. appreciate how developments in technology and mathematics influence each other
8. appreciate the moral, social and ethical questions arising from the work of mathematicians and the applications of mathematics
9. appreciate the universality of mathematics and its multicultural, international and historical perspectives
10. appreciate the contribution of mathematics to other disciplines, and as a particular “area of knowledge” in the TOK course
11. develop the ability to reflect critically upon their own work and the work of others
12. independently and collaboratively extend their understanding of mathematics.

Assessment criteria, method and tasks

<General criteria(school-based)>

A: knowledge and skills (max. 6)

This criterion assesses students' understanding of mathematical knowledge and skills with formative quiz and final exam mainly.

B: Process and reflection (max. 6)

This criterion assesses the abilities of:

- 1) interpreting real-life problems into mathematical problems and deriving a conclusion from facts based on proper mathematical procedures, then reflecting and evaluating the process of solving problems and the conclusion
- 2) deriving and verifying patterns and properties from

<Criteria for mathematical exploration>

Criterion A: presentation (max. 4)

This criterion assesses the organization and coherence of the exploration.

Criterion B: Mathematical communication (max. 4)

This criterion assesses to what extent the student has:

- used appropriate mathematical language (**notation, symbols, terminology**). Calculator and computer notation is acceptable only if it is software generated. Otherwise it is expected that students use appropriate mathematical notation in their work
- defined **key terms** and variables, where required
- used **multiple forms of mathematical**

mathematical phenomena, then developing them further

with report task, final exam and so forth.

C: Mathematical Communication (max. 6)

This criterion assesses the abilities of:

- 1) showing good use of precise mathematical expressions or notations effectively
- 2) reasoning appropriately and explain his or her opinions clearly and concisely
- 3) expressing his or her opinions against other's ideas based on appropriate reasoning

with report task, final exam and so forth.

The total score is 18.

The scale for evaluation is 1-7.

representation, such as formulae, diagrams, tables, charts, graphs and models, where appropriate

- used a **deductive method** and set out proofs

logically where appropriate.

Criterion C: Personal engagement (max. 3)

This criterion assesses the extent to which the student engages with the topic by exploring the mathematics and making it their own.

Criterion D: Reflection (max. 3)

This criterion assesses how the student reviews, analyses and evaluates the exploration.

Criterion E: Use of mathematics-SL (max. 6)

This criterion assesses to what extent students use mathematics that is relevant to the exploration.

The total score is 20.

Contents of study

1. Mathematical exploration (April)

Each student must choose his or her own topic or research question and explore it, using mathematics. Sharing his or her own topic and give some feedbacks to each other.

2. Pre-calculus (April-July)

(contents) Applications of differentiation, integration and volumes

3. Voronoi diagrams (September)

(contents) Constructing Voronoi diagrams, adding a site to a Voronoi diagrams.

4. Review and Preparation for the external exam (October)

(contents) Reviewing and working on mock exams.

5. Coordinate geometry (November - January) ※The content will be subject to change.

(contents) Some centroids for a triangle, Equations for some diagrams.

理科 6学年 <SS 物理>

6か年を通した目標

自然に対する関心を高め、「物理」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。

6学年の目標/伸ばしたい力

SS 物理は、本校の SSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業の一環として開設する科目である。具体的には、IBDP Group4 Physics の趣旨を取り入れた授業を行い、以下を身につけることを目指す。

- ・個人による実験デザインを可能にするための科学的知識および実験・観察スキルの定着。
- ・ディスカッションやグループ実験を通して養うチームワーク力。
- ・データ処理、シミュレーション、表現・発信のツールとして ICT 活用能力。
- ・科学技術の可能性とその限界への理解と意識

物理的な事物・現象についての目的意識をもって観察、実験などをおこない、物理学的に探究するとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育む。

評価規準

- 規準 A: 知識と理解
- 規準 B: 探究
- 規準 C: 実験・観察の技能
- 規準 D: データ処理
- 規準 E: 評価
- 規準 F: 科学による影響の振り返り

評価方法

- 試験
- レポート提出物
- 実験
- 課題研究
- 実験・観察への取り組み

学習内容

力と運動、波動、電気と磁気、物質と原子などの単元を通して、身近にある自然現象や応用技術など私たちの生活と物理学の関わりについて学びます。

<力と運動>

1. 円運動と単振動 (慣性力・万有引力)
2. 運動量の保存 (運動量と力積)
3. 剛体のつり合い (力のモーメント・重心)

<熱>

4. 気体分子の運動と圧力 (ボイルの法則・シャルルの法則・理想気体の状態方程式)
5. 気体の状態変化 (熱力学第一法則・熱力学第二法則)

<波動>

6. 波の性質 (反射, 屈折, 回折, 干渉など)
7. 光 (幾何光学, 波動光学)

<電気と磁気>

8. 電場と電位 (電荷, 電場, 電位, コンデンサー)
9. 電流 (電流, 直流回路)
10. 磁場と電流 (磁場, 電流と磁場, 磁場が電流におよぼす力, ローレンツ力)
11. 電磁誘導と電磁波 (電磁誘導, 交流, 電磁波)

<原子>

12. 電子と光 (電子, 光の粒子性, 粒子の波動性)
13. 原子と原子核 (原子の構造, 原子核, 原子核反応, 素粒子)

※進度に応じて順序および内容を変更することがあります。

授業では教科書「物理」(実教出版)のほか、デジタル教材や演習・実験など必要に応じて補助教材を使用して授業を進めます。問題演習は、問題集等を用いて各自のペースで進めてください。

6 か年を通した目標

自然に対する関心を高め、「物理」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。

6 学年の目標/伸ばしたい力

自然の事物現象について、量的・関係的な視点で観察、実験などを行い、物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、量的・関係的に探究する能力と態度を獲得する。また、科学に関して、英語を用いて議論したり、考えたりする。

具体的には次のような学力や姿勢を修得することをめざします。

- 科学が私たちの生活・社会・環境・文化とどのような関わりをもつか、具体的に論じることができる。
 - 問題や課題に応じて適切な科学用語や表現を用いて、視覚、論述、口頭による適切な表現ができる。
 - 実験データ等から得られる情報を科学に関する知識や考え方を用いて分析し評価することができる。
 - 科学的方法論の妥当性およびその結果の信頼性を評価し、さらに方法論の改善を提案できる。
 - 実験データを数式や図式で表現し、その傾向、パターン、関係性を示し、適切な科学的解釈をする。
 - 科学的知識や考え方を基にした合理的判断力と、科学的思考に基づいた批判する姿勢を身につける。
- あわせて IBDP Group4Physics の趣旨を取り入れた授業を行い、以下を身につけることを目指します。

- ・個人による実験デザインを可能にするための科学的知識および実験・観察スキルの定着
- ・ディスカッションやグループ実験を通して養うチームワーク力
- ・データ処理、シミュレーション、表現・発信のツールとして ICT 活用能力
- ・科学技術の可能性とその限界への理解と意識

評価規準

評価方法

規準① 主体的な取り組み

レポート提出物

規準② 探究

実習など

規準③ 分析

課題研究（プロジェクト）

規準④ 評価

観察への取り組み

規準⑤ コミュニケーション

文部科学省 高等学校学習指導要領における教科の観点

観点 1 知識・技能

観点 2 思考・判断・表現

観点 3 主体的に学習に取り組む態度

学習内容

Biophysics についての講義・実習（演習）およびプロジェクトを通して、物理の知識や手法および考え方の応用について理解を深める。社会生活や先端技術への物理学の応用など私たちの生活と物理学の関わりについて学びます。次の分野の中からトピックを取り上げ、英語で学びます。

- | | |
|-------------------------------------|--|
| ・ Introduction to Biophysics | 1. Identifying alpha-helices and beta-sheets |
| ・ Cellular and Molecular Biophysics | 2. Identifying bonds with in proteins |
| ・ Protein Physics | 3. Distinguishing secondary structures |
| ・ Protein Structure | 4. Homology modelling |
| ・ Protein Interaction | Project Title |
| ・ Protein Folding and Energy | 1. Influenza/MersCoVa |
| ・ Secondary Structure | 2. Porphyromonas gingivalis FimA |
| ・ Protein Structure Classification | 3. Vaccine design |
| ・ Protein Prediction | 4. Own Project |
| | Science Fair (presentation) |

理科 6学年 <物理基礎演習>

6か年を通した目標

自然に対する関心を高め、「物理」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。

6学年の目標/伸ばしたい力

物理演習では物理基礎で学習した内容の復習を行い、物理の基本的な概念の理解を深めるとともに、主に共通テストを目標とした問題演習を扱い、物理的な思考力をのばしていきます。

評価規準

評価方法

規準A 知識と理解

テスト

学習内容

以下の学習内容を通して、物理的な事物・現象に関する基礎的な知識及び基本的な概念や原理・法則を学習します。

<力学・運動領域>

1. 運動の表し方
2. 運動の法則
3. 仕事とエネルギー

<波動・電磁気領域>

4. 電気
5. 波動
6. 音波

※進度に応じて順序および内容を変更することがあります。

理科 6 学年 <SS 化学>

6 か年を通した目標

自然に対する関心を高め、「化学」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。

6 学年の目標/伸ばしたい力

SS 化学は、本校の S S H (スーパーサイエンスハイスクール) 事業の一環として開設する科目である。具体的には、IBDP Group4 Chemistry の趣旨を取り入れた授業を行い、以下を身に付けることを目指す。

- ・個人による実験デザインを可能にするための科学的知識および実験・観察スキルの定着。
- ・ディスカッションやグループ実験を通して養うチームワーク力。
- ・データ処理、シミュレーション、表現・発信のツールとして ICT 活用能力。
- ・科学技術の可能性とその限界への理解と意識。

評価規準

評価方法

規準 A 知識と理解

実験の取り組み

規準 B 探究

グループワークやプレゼンテーション

規準 C 実験・観察の技能

実験ノート・レポート等の提出物

規準 D データ処理

テスト

規準 E 評価

規準 F 科学による影響の振り返り

学習内容

(1) 物質の状態と平衡

ア物質の状態とその変化

(7) 状態変化 (イ) 気体の性質 (ウ) 固体の構造

イ溶液と平衡

(7) 溶解平衡 (イ) 溶液とその性質

ウ物質の状態と平衡に関する探究活動

(2) 物質の変化と平衡

ア化学反応とエネルギー

(7) 化学反応と熱・光 (イ) 電気分解 (ウ) 電池

イ化学反応と化学平衡

(7) 反応速度 (イ) 化学平衡とその移動 (ウ) 電離平衡

ウ物質の変化と平衡に関する探究活動

(3) 無機物質の性質と利用

ア無機物質

(7) 典型元素 (イ) 遷移元素

イ無機物質と人間生活

(7) 無機物質と人間生活

ウ無機物質の性質と利用に関する探究活動

(4) 有機化合物の性質と利用

ア有機化合物

(7) 炭化水素 (イ) 官能基をもつ化合物 (ウ) 芳香族化合物

イ有機化合物と人間生活

(7) 有機化合物と人間生活

ウ有機化合物の性質と利用に関する探究活動

(5) 高分子化合物の性質と利用

ア高分子化合物

(7) 合成高分子化合物 (イ) 天然高分子化合物

イ高分子化合物と人間生活

(7) 高分子化合物と人間生活

ウ高分子化合物の性質と利用に関する探究活動

理科 6学年 <化学基礎演習>

6か年を通した目標

自然に対する関心を高め、「化学」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。

6学年の目標/伸ばしたい力

化学基礎の内容の例題、基礎問題を解き、基礎力を高める。自分の苦手分野を把握し、克服するために何に取り組むことが大切か分析する力をつける。大学入学共通テストに対応できる学力を身につける。

評価規準

規準 A 知識と理解

評価方法

テスト

学習内容

化学基礎の内容の復習、基礎問題を解き、大学入学共通テスト対策を行う。

- ・物質の構成
- ・物質と化学結合
- ・物質の変化
- ・酸と塩基
- ・酸化還元反応

教科書：「化学基礎」実教出版

資料集：「サイエンスビュー化学総合資料」実教出版

問題集：「セミナー化学基礎」第一学習社 等

理科 6 学年 <SS 生物>

6 年を通した目標

人間を含む生物、人間を取り巻く生物について多様な視点からその実体と現代科学の到達点と問題点を理解し、人間生活に正しく関連づけて、時に行動につなげられるようにする。

6 学年の目標/伸ばしたい力

SS 生物は、本校の S S H(スーパーサイエンスハイスクール)事業の一環として開設する科目である。

具体的には、IBDP Group4 Biology の趣旨を取り入れた授業を行い、以下のスキルを身につけることを目指す。

- ・ 個人による実験デザインを可能にするための科学的知識および実験・観察スキルの定着。
- ・ ディスカッションやグループ実験を通して養うチームワーク力。
- ・ データ処理、シミュレーション、表現・発信のツールとして ICT 活用能力。
- ・ 科学技術の可能性とその限界への理解と意識。」生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

評価規準

評価方法

規準 A: 知識と理解

試験

規準 B: 探究

レポート提出物

規準 C: 実験の観察の技能

実験

規準 D: データ処理

課題研究

規準 E: 評価

観察への取り組み

規準 F: 科学による影響の振り返り

学習内容

(1) 生物の進化

生物の進化についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 生物の進化について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などの技能を身に付けること。

イ 生物の進化について、観察、実験などを通して探究し、生物の進化についての特徴を見いだして表現すること。

(2) 生命現象と物質

生命現象と物質についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 生命現象と物質について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などの技能を身に付けること。

イ 生命現象と物質について、観察、実験などを通して探究し、生命現象と物質についての特徴を見いだして表現すること。

(3) 遺伝情報の発現と発生

遺伝情報の発現と発生についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 遺伝情報の発現と発生について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

イ 遺伝情報の発現と発生について、観察、実験などを通して探究し、遺伝子発現の調節の特徴を見いだして表現すること。

(4) 生物の環境応答

生物の環境応答についての観察，実験などを通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 生物の環境応答について，次のことを理解するとともに，それらの観察，実験などの技能を身に付けること。

イ 生物の環境応答について，観察，実験などを通して探究し，環境変化に対する生物の応答の特徴を見いだして表現すること。

(5) 生態と環境

生態と環境についての観察，実験などを通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 生態と環境について，次のことを理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付けること。

イ 生態と環境について，観察，実験などを通して探究し，生態系における，生物間の関係性及び生物と環境との関係性を見いだして表現すること。

理科 6 学年 <生物基礎演習>

6 か年を通した目標

自然に対する関心を高め、「生物」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようにする。

6 学年の目標/伸ばしたい力

生物や生物現象に対する探究心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

評価規準

評価方法

規準 A 知識と理解

テスト

学習内容

大学入試センター試験の受験を意識した構成とし、「生物基礎」で学習した内容に関して理解を深め、演習を通して知識の定着をはかる。

理科 6学年 <SS 地学>

6か年を通した目標

自然に対する関心を高め、「地学」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、宇宙という時間的・空間的にスケールの大きな存在から、足元の石という身近なスケールのものまでの関連性を、つながりを持ってとらえ、また、それらの存在の認識を通して、人間の存在について考え、人間の行動について判断できるようになる。

6学年の目標/伸ばしたい力

課題研究やそれを進めるための実験や観察を通じて、地学現象の理解を深めるとともに、科学的に探究する能力と態度を育てる。そして、地学の高度な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養い、難関国立大学の2次試験に十分通用する学力を身につける。

評価規準

評価方法

規準 A: 知識と理解

テスト・レポート

規準 B: 探究

テスト・レポート

規準 C: 実験の観察の技能

実験・観察・レポート

規準 D: データ処理

実験・観察・レポート

規準 E: 評価

規準 F: 科学による影響の振り返り

学習内容

以下の学習内容を通して、地学現象に関する基礎的な知識及び基本的な概念や原理・法則を系統的に学習します。

- ・ 地球の構成と内部エネルギー
- ・ 地球の活動
- ・ 地球の大気と海洋
- ・ 地球表層の水の動きと役割
- ・ 地球の環境と歴史
- ・ 宇宙の構成

理科 6学年 <SS 地学基礎>

6か年を通した目標

自然に対する関心を高め、「地学」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、宇宙という時間的・空間的にスケールの大きな存在から、足元の石という身近なスケールのものまでの関連性を、つながりを持ってとらえ、また、それらの存在の認識を通して、人間の存在について考え、人間の行動について判断できるようになる。

6学年の目標/伸ばしたい力

実験や観察を通じて、東日本大震災や地球温暖化、皆既日食など、身近な地学現象への関心を高めるとともに、科学的に探究する能力と態度を育てる。そして、地学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養い、国立大学の2次試験に十分通用する学力を身につける。

評価規準

規準 A: 知識と理解
規準 B: 探究
規準 C: 実験の観察の技能
規準 D: データ処理
規準 E: 評価
規準 F: 科学による影響の振り返り

評価方法

テスト
実験・観察・レポート
実験・観察・レポート

学習内容

以下の学習内容を通して、地学現象に関する基礎的な知識及び基本的な概念や原理・法則を系統的に学習します。

- ・ 活動する地球
- ・ 地球と環境
- ・ 大気と海洋
- ・ 移り変わる地球
- ・ 惑星としての地球
- ・ 宇宙の構成

理科 6 学年 <地学基礎演習>

6 か年を通した目標

自然に対する関心を高め、「地学」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、宇宙という時間的・空間的にスケールの大きな存在から、足元の石という身近なスケールのものまでの関連性を、つながりを持ってとらえ、また、それらの存在の認識を通して、人間の存在について考え、人間の行動について判断できるようになる。

6 学年の目標/伸ばしたい力

地学基礎演習では地学基礎で学習した内容の復習を行い、主に共通テストを目標とした問題演習を重ね、地学的な思考力を伸ばすとともに問題演習のスキルを伸ばしていきます。

評価規準

評価方法

規準 A: 知識と理解

テスト

学習内容

以下の学習内容を通して、地学現象に関する基礎的な知識及び基本的な概念や原理・法則を系統的に学習します。

- ・ 活動する地球
- ・ 地球と環境
- ・ 大気と海洋
- ・ 移り変わる地球
- ・ 惑星としての地球
- ・ 宇宙の構成

理科 6 学年 <DP 化学>

6 年を通した目標

自然に対する関心を高め、「化学」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。

DP 化学の 2 年間 (5~6 学年) の目標/伸ばしたい力

化学の原理は、私たちが生活する物理的環境や生物システムの理解を支える土台となります。DP Chemistry では現実事象の理解や解決のために、実験・研究スキルの習得と化学の基本原理の学習が一体となった学習をします。学習過程においては、実験デザインに関わる全ての活動を個人で行います。科学的な知識、実験観察の技能、思考力や判断力、コミュニケーション力、ICT 活用力等、多様な能力やスキルをバランスよく習得していきます。

評価規準

評価方法

DP 化学の次の 3 つの評価目標(評価規準、観点)に基づいて評価します。3 つの観点重みづけを A40%, B40 % C20 % とします。3 つの観点を総合して、各学期および学年の DP 評価を 7 段階で、学年の評定を 5 段階で示します。

規準 A 知識と理解(7 点)
規準 B 分析と評価(7 点)
規準 C 研究スキル(7 点)

下記の①~④の 4 つの評価対象によって評価します。①~④のそれぞれについて、A~C の観点ごとに点数化し、換算表によって 7 段階評価および 5 段階評定を算出します。

①単元テスト … DP 最終試験の形式に準拠したテスト。Paper 1 は多肢選択問題、Paper 2 と Paper 3 は短答式問題と論述的問題です。

②模試 … 6 年次 8 月後半に DP 最終試験に則って実施します。

③IA (内部評価) およびプレ IA の科学的探究の実験レポート。

④その他、実験ノートの活用や授業内の議論等の学習状況全般:

文部科学省 高等学校学習指導要領における教科の観点

上記の 4 観点は、文部科学省が高等学校における理科の評価の観点として定めている 4 観点と次のように対応しています。

関心・意欲・態度
思考・判断・表現
技能
知識・理解

授業中の活動、課題等への取組みを総合的に判断して評価します。

上記の観点 A・B・C に対応します。

上記の観点 B・C に対応します。

上記の観点 A に対応します。

学習内容

<1 学期>

Option A 材料科学

材料科学序論、金属と誘導結合プラズマ(ICP)分光分析法、触媒、液晶、ポリマー、ナノテクノロジー、環境への影響—プラスチック

Topic 6 反応速度論

衝突理論と反応速度

Topic 7 化学平衡

平衡定数

IA(内部評価課題)の実施

<2 学期>

IA(内部評価課題)の実施

Topic 1~11 の復習

<第 3 学期>

○テーマ学習

★ 詳細については「DP 生徒用ガイド : Chemistry SL」を参照してください。

保健体育科 6学年 <体育>

6か年を通した目標

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

6学年の目標/伸ばしたい力

健康に関する基礎的な知識や概念を理解するとともに、学習内容を十分に活用することができる。

運動の原則やルール、高度な戦術を考えることができる。

一連の動きや技の構成などが洗練され、美的でスムーズに展開するとともに、表現豊かに運動することができる。

より複雑な運動に対して必要な技術を習得し、それを利用して課題解決を図ったり、他者にも示したりすることができる。

個人やグループで、優れた作戦や戦術を使って攻防したり、挑戦したりすることができる。

他者との連携を図るために、協力したり責任感を持って取り組んだりするとともに、効果的なコミュニケーション力を発揮しようとするすることができる。

学習カードの提出等、決められた約束を守ったり、他者と協力して懸命に取り組んだりすることができる。

各運動種目における専門的な知識を深めながら技能を高めることができる。

種目選択においては技術的な向上だけでなく、各競技を運営していくための能力を養うことができる。

評価規準

運動の理解と応用
運動の技能
活動への個人的取り組み

評価方法

学習ノートの活用・内容、種目の特性理解
各種目の実技テスト、試合におけるパフォーマンス
授業への取り組み

学習内容

- ① 体づくり運動/スポーツテスト：4月～5月
- ② 選択種目Ⅲ（バドミントン・ソフトボール・バスケットボール）：5月～7月
- ③ 選択種目Ⅳ（ハンドボール・テニス・バレーボール）：9～11月
- ④ 選択種目Ⅴ（バドミントン・アルティメット・卓球）：11月～1月
- ⑤ 専門種目：4月～1月

※公開研究会等の都合により、学習の順番が前後することがあります。

芸術科 6学年 <音楽Ⅲ>

6か年を通した目標

国際社会の一員として必要となる豊かな情操を養っていくために、表現および鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、創造的な音楽性を培う。

6学年の目標/伸ばしたい力

- 1 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものに、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。
- 2 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、より高度な表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。
- 3 多様な音楽に対する理解を深め、活動を通し主体的に鑑賞する能力を高める。

評価規準

規準 A 知識・技能

規準 B 思考・判断・表現

規準 C 主体的に学習に取り組む態度

評価方法

歌唱テスト・器楽演奏・言語を含めた楽曲の編曲

音楽分析

プロセスジャーナル、授業の取組の様子

学習内容

「表現」

多様な音楽ジャンルにおける5部合唱から6部合唱の響きへと、相互の表現力を高めていきます。楽曲の和声的、形式的理解や、純正律を意識しながらハーモニーをつくることを、授業を体験しながら理解を深め、高度なコーラスを目指します。

・ハーモニーの学習

クローズハーモニーの表現方法を追求していきます。

・音楽表現に関わる高度な学習

多様なジャンル、音楽体系の表現方法を追求し、幅広い時代の楽曲作品について表現できる力を育てていきます。

・楽曲分析に基づく表現の学習

方向性のある音楽づくりという観点で、理論・感性に基づく自己表現方法を追究します。

「鑑賞」

音楽を通じた表現に関する作品について鑑賞力を高めていきます。幅広い時代の音楽をより深く分析することを通して、音楽表現の幅を広げていきます。

・総合芸術 / 相互鑑賞

自らのアンサンブル表現を追求し、互いの演奏を鑑賞することを通して鑑賞力を高めていきます。音楽史の推移を学習しながら、時にそれぞれの音楽を再現することを通して、体験的に学習する。

「創作」

・和声学法、現代ポップスの作曲技法に基づく作編曲

ハーモニーの構造や和音進行の学習を深めつつ、旋律の創作、多編成への音楽の創作へと学習を広げていきます。

芸術科 6 学年 <音楽Ⅲ> 演習

6 か年を通した目標

国際社会の一員として必要となる豊かな情操を養っていくために、表現および鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、創造的な音楽性を培う。

6 学年演習の目標/伸ばしたい力

- 1 音楽を専門的に学ぶための基礎知識と理論を学習する。
- 2 多様な音楽表現の豊かさを理論的に裏付けし、より高度な表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。
- 3 多様な音楽に対する理解を深め、活動を通し主体的に鑑賞する能力を高める。

評価規準

- 規準 A 知識・技能
 規準 B 思考・判断・表現
 規準 C 主体的に学習に取り組む態度

評価方法

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ●基礎課題（理論） 和声学課題演習 楽典問題演習 楽曲分析（アナリーゼ） 聴音 | <ul style="list-style-type: none"> ●応用課題（実践） ハーモニーアレンジ ストリングスアレンジ 作曲・編曲作品提出 作品演奏 |
|---|---|

学習内容

① 学習内容

「理論」

音楽を専門的に学ぶための基礎理論を学習します。

- ・音楽理論の基礎を学びます。
楽典分野にとどまらず、和声学などの理論を学びます。
- ・楽曲分析に基づく表現の学習
方向性のある音楽づくりという観点で、理論・感性に基づく自己表現方法を追究します。
- ・幅広いジャンルの鑑賞をおこない、音楽の多様性を理解していきます。
音楽をさまざまな分野に応用できるよう、幅広い音楽ジャンルを分析し、理解を深めていきます。

「実践」

音楽を専門的に学ぶための鑑賞能力を高めていきます。

- ・聴音、新曲視唱
音楽家、アーティストとして必要な基礎的な聴音力、初見による演奏力を身に付けていきます。
- ・和声と楽曲の分析（アナリーゼ）
様々な角度から音楽を楽譜に、楽譜を音楽に表現する力を高めていきます。
- ・編曲と作曲作品の制作
学習した理論と実践を応用しながら、編曲と作曲を 1 作品以上制作します。
- ・楽器の構造理解と演奏
新しい楽器に挑戦するとともに、2 学期末までにはそれらの楽器でアンサンブルをすることが目指します。
また、楽器の構造やしぐみについて知識を身に付け、音の鳴る原理や応用について理解を深めます。

芸術科 6学年 <美術Ⅲ>

6か年を通した目標

様々な表現活動や鑑賞活動を通じて、多様な文化を体験し、独創的な発想力や構想力を高め、柔軟な感性を持つ、国際社会に通用する人間を育成する。

6学年の目標/伸ばしたい力

美術科では6年間で3段階に分け、基礎美術、発展美術、創造美術と位置づけます。3つの段階を学習することにより、基礎から応用まで無理なく楽しみながら学習活動ができるようにします。なお、後期課程からは芸術科は選択科目になります。

美術教室の中での活動だけでなく、学校図書館や美術館等の施設を積極的に活用し、美術に対する関心・意欲や鑑賞力・創造力を高めていきます。

6年生は多様な表現や文化への理解を深め、豊かな感性と創造力を持って社会へはばたいていく時期と捉え、授業を展開していきます。

評価規準	評価方法
知識・技能	作品・課題・授業中の活動などをもとに評価する。
思考・判断・表現	アートジャーナル・作品・授業中の活動などをもとに評価する。
主体的に学習に取り組む態度	アートジャーナル・作品・課題・授業中の態度などをもとに評価する。

学習内容

1) 作品

これまでに学習した様々な分野の手法を活用して、自分の追究したい主題を表現します。

(主な学習内容・活動内容) 絵画、彫刻、デザイン、映像メディア表現、スケッチ

2) アートプロセスジャーナル

作品制作と関連して、学習をより深める為に追究すべきことを設定し記録します。

制作過程や成果も記録します。

(主な学習内容・活動内容) 美術の文化・歴史・作家・作品・表現の調査と分析、表現技法の研究、アイデアスケッチ、制作計画・課程・成果の記録、自他の表現の振り返りと評価

*行事等授業時数の関係で内容が多少変更することがあります。

芸術科 6 学年 <書道Ⅲ>

3 か年を通した目標

様々な表現活動や鑑賞活動を通じて、多様な文化を体験し、独創的な発想力や構想力を高め、柔軟な感性を持つ、国際社会に通用する人間を育成する。

6 学年の目標/伸ばしたい力

6 年生の芸術書道は、書道における専門的な知識の学習を行うとともに、古典の臨書学習を通し、書道における伝統的な表現の方法を学びます。書を自己表現の有効的な一つの方法としてとらえ、豊かな芸術表現や活動ができるようにします。また、書の様々な表現に触れながら、書の文化的活動の体験を通して、豊かな感性を育むとともに芸術への関心を深めます。

評価規準

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

評価方法

学習した芸術的な内容や理論的根拠などに関する知識や理解について授業ごとのワークシートやレポートなどを通じて評価します。鑑賞した古典や作品の制作過程への考察、またはそれらが制作された意図や時代背景への学習を起点とし、書文化全体への興味・関心を深めることができたかをワークシートやレポートを通じて評価します。

芸術を表現とコミュニケーションの一形態として活用できる力や、発想や主題を構成して具体化する力、作品と作品制作を行う過程などを通じて評価します。

書の表現に必要な基本的なスキルと適切な用具用材の扱い方なども評価します。

自分の作品について充分考えることができたか、発想を自己の技術により具体化するだけでなく、作品制作の過程においても十分な工夫ができたか、またフィードバックできたかを学習活動やワークシートを通じて評価します。

制作期限を守って作業をしたか、前向きな制作環境を作って作業したか等についてもワークシートや授業態度などを通じて評価します。

学習内容

【1 学期】

●書道Ⅱの復習と書道Ⅲの導入

●漢字の書の学習

採択体験/書体の変遷

楷書の書風比較/臨書学習①「麻姑仙壇記」/臨書学習②光明皇后「楽毅論」

行書の書風比較/臨書学習③「喪乱帖」/草書の書風比較/臨書学習④「離洛帖」

篆書の書風比較/臨書学習④「散氏盤」「甲骨文字」「金文」

●篆刻

篆刻の方法と手順/落款印の制作（仮名・漢字仮名交じり用）

2 学期

●仮名の書の学習

仮名の用筆の復習/散らし書きの鑑賞と方法/臨書学習①「小倉色紙」

臨書学習②「高野切第三種」（長文臨書）/創作作品制作（仮名、散らし書き）

料紙作り、紙の加工/表具

●漢字仮名交じりの書の学習

漢字と仮名の調和、書く言葉の内容と表現の関係/イメージに合う作品制作と表現

創作作品①（長文大作品）

実用書（年賀状）

【3 学期】

●漢字仮名交じりの書の学習

創作作品制作②（小作品）

芸術科 6 学年 <DP 美術>

6 か年を通した目標

様々な表現活動や鑑賞活動を通じて、多様な文化を体験し、独創的な発想力や構想力を高め、柔軟な感性を持つ、国際社会に通用する人間を育成する。

DP 美術の 2 年間（5～6 学年）の目標/伸ばしたい力

In DP Visual Arts students will experiment with a wide variety of genres and styles while exploring their own creative and cultural backgrounds. The course will focus on finding personal identity as well as understanding how the visual arts can affect society and the environment around us. Students will develop the ability to express their ideas for lifelong use.

評価規準

評価方法

At the end of each school term, students will be evaluated by the school-based DP visual arts assessment criteria.

Criteria A

Analytical Thinking

Criteria B

Artistic Expression

Criteria C

Communicating

Through Art

Criteria D

Developmental Process

Evidences;

The Art Journal (Nonverbal visualization are included.)

Art Works, Presentation, Reports

Comparative study

Process portfolio

Art Exhibition

Assessment components

External assessment

Comparative study—20%

Students at SL analyse and compare different artworks by different artists. This independent critical and contextual investigation explores artworks, objects and artifacts from differing cultural contexts.

Process portfolio—40%

Students at SL submit carefully selected materials, which evidence their experimentation, exploration, manipulation and refinement of a variety of visual arts activities during the two- year course.

Internal assessment

Part 3: Exhibition—40%

Students at SL submit for assessment a selection of resolved artworks from their exhibition. The selected pieces should show evidence of their technical accomplishment during the visual arts course and an understanding of the use of materials, ideas and practices appropriate to visual communication.

学習内容

1 st semester/ April-May	Creation of artwork related to the theme
1 st semester/ June-July	Improvement of artwork
Summer Vacation	Complete all work
2 nd semester/ September-	Exhibition
2 nd semester/ October	Submission for IB
2 nd semester/ November-December	Classroom critiques and reflection
3 rd semester	Reflection

★ 詳細については「DP 生徒用ガイド : Visual arts SL」を参照してください。

外国語科 6 学年 <コミュニケーション英語Ⅲ総合>

6 年を通した目標

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語能力全般の伸長をめざします。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。

6 学年の目標/伸ばしたい力

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、書き手の意向などを読みとる能力を一層伸ばすとともに、英語を理解しようとする積極的な態度を育てることを目指します。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。

At the end of phase 5 (Proficient level), students should be exposed to a wide variety of complex authentic spoken multimodal texts and be able to:

Criterion A: Listening

- i. identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
- ii. analyse conventions
- iii. analyse connections.

Criterion B: Reading

- i. identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
- ii. analyse conventions
- iii. analyse connections.

Criterion C: Speaking

- i. use a wide range of vocabulary
- ii. use a wide range of grammatical structures generally accurately
- iii. use clear pronunciation and intonation in a comprehensible manner
- iv. during interaction, communicate all or almost all the required information clearly and effectively.

Criterion D: Writing

- i. use a wide range of vocabulary
- ii. use a wide range of grammatical structures generally accurately
- iii. organize information effectively and coherently in an appropriate format using a wide range of complex cohesive devices
- iv. communicate all or almost all the required information with a clear sense of audience and purpose to suit the context.

評価規準

- 規準 A リスニング
- 規準 B リーディング
- 規準 C スピーキング
- 規準 D ライティング

評価方法

- テスト
- テスト
- スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー
- 作文、文法問題、エッセイ、テスト等

学習内容

6 年次では、自分の目的や興味関心に応じて自己の判断で授業を選択することができます。

【コミュニケーション英語Ⅲ総合】

科目名	6 コミュ英1	授業名	英語基礎読解
-----	---------	-----	--------

文部科学省検定教科書を中心に授業を進め、できるだけたくさんの文章を読んでいます。また、語彙力の増強のため単語や熟語のテストを行います。

科目名	6コミュ英2	授業名	英語応用読解
-----	--------	-----	--------

文部科学省検定教科書を含め、できるだけたくさんの方の文章を読んでいきます。発展的な活動に取り組むために、様々なトピックを取り扱います。リーディングを基本に、ディスカッションやライティング、プレゼンテーションのような応用的な活動にも取り組みます。

科目名	6コミュ英3	授業名	Text Interpretation and Critical Thinking
-----	--------	-----	---

This course aims to develop your reading skills and critical thinking. You will work on reading comprehension practices of various kinds of texts such as argumentative and academic readings. You will also work on enhancing your vocabulary for future studies using the academic word list, as well as participate in group discussions and presentations.

科目名	6コミュ英4	授業名	Advanced English Reading / Literature (Fiction)
-----	--------	-----	---

We will read and analyze famous short stories, compare them with thematically related texts, and investigate what they have to say about life and the world. We will also spare some time for in-depth discussions, drawing our themes from the short stories and relating them to TOK prompts.

資格取得・検定受験

将来に備えて、英語に関わる資格である英検・TOEFL・TOEIC・SAT・IELTS のいずれかを2回もしくは2種類以上受験すること（種類は問わない）を推奨します。

外国語科 6 学年 <英語表現Ⅱ 総合>

6 年を通した目標

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語能力全般の伸長をめざします。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。

6 学年の目標/伸ばしたい力

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、自分の考えなどを的確に書く能力を一層伸ばすとともに、英語で表現しようとする積極的な態度を育てることを目指します。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。

At the end of phase 5, students should be able to:

Criterion A: Communicating in response to spoken, written and visual text

- i. respond appropriately to spoken, written and visual text
- ii. engage in rehearsed and unrehearsed exchanges to share ideas on a range of topics of personal and global significance
- iii. express ideas, opinions and feelings, and communicate information in a wide range of situations
- iv. communicate with a sense of register, purpose and style.

Criterion B: Using language in spoken and written form

- i. write and speak using a range of vocabulary, complex grammatical structures and conventions; when speaking, use intonation and fluency
- ii. organize information and ideas; use a wide range of cohesive devices
- iii. use language to suit the context.

評価規準

観点A コミュニケーション
観点B 言語の使用

評価方法

スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー、エッセイ
作文、文法問題、エッセイ、テスト等

学習内容

6 年次では、自分の目的や興味関心に応じて自己の判断で授業を選択することができます。

【英語表現Ⅱ 総合】

科目名	6英表Ⅱ1	授業名	基礎ライティング・スピーキング
-----	-------	-----	-----------------

文部科学省検定教科書や問題集に沿って、文法や構文を確認しながら、基礎の英作文に取り組みます。基本的な単文だけでなく、パラグラフ・ライティング、簡単なエッセイを英語で書けることを目指します。

科目名	6英表Ⅱ2	授業名	応用ライティング・スピーキング
-----	-------	-----	-----------------

『書く』ことに焦点を当てた様々な活動を行います。時事的な単語や表現を用いた英作文や、時事問題を題材とした入試問題に取り組み、効果的な書き方を考えます。更に応用的な英作文・英文要約問題などの学習を通じて表現力を磨く訓練を行います。文法事項はこれまで身に付けてきた力を総合問題で確認します。多面的かつ論理的な思考力を身に付けることで、大学受験だけではなくその先につながるライティング力の獲得を目指します。

科目名	6英表Ⅱ3	授業名	Writing and Speaking Workshop
-----	-------	-----	-------------------------------

This course aims to help you acquire and polish basic oral communication and writing skills. You will work on analyzing and discussing a variety of modern written and spoken texts, discovering their characteristics, and writing similar types of written and spoken texts individually and in groups.

科目名	6英表Ⅱ4	授業名	Creative Writing and Speaking
-----	-------	-----	-------------------------------

Students in this class will read novels, analyze and discuss influential pieces of writing, and experiment writing in various form from poetry to short story to satire to oratory. In each form, we will aim to engage the minds of our readers, not only guiding their ideas but also their emotional pathways, using the power of language to reshape their world.

資格取得・検定受験

将来に備えて、英語に関わる資格である英検・TOEFL・TOEIC・SAT・IELTS のいずれかを2回もしくは2種類以上受験すること（種類は問わない）を推奨します。

外国語科 6 学年 <コミュニケーション英語Ⅲ演習>

6 年を通した目標

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語能力全般の伸長をめざします。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。

6 学年の目標/伸ばしたい力

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、書き手の意向などを読みとる能力を一層伸ばすとともに、英語を理解しようとする積極的な態度を育てることを目指します。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。

At the end of phase 5, students should be able to:

Criterion A: Listening

- i. identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details) in complex authentic texts
- ii. analyse conventions in complex authentic texts
- iii. analyse connections in complex authentic texts

Criterion B: Reading

- i. identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details) in complex authentic texts
- ii. analyse conventions in complex authentic texts
- iii. analyse connections in complex authentic texts

Criterion C: Speaking

- i. use a wide range of vocabulary
- ii. use a wide range of grammatical structures generally accurately
- iii. use clear pronunciation and intonation which makes the communication easy to comprehend
- iv. during interaction, communicate all or almost all the required information clearly and effectively

Criterion D: Writing

- i. use a wide range of vocabulary
- ii. use a wide range of grammatical structures generally accurately
- iii. organize information effectively and coherently in an appropriate format using a wide range of complex cohesive devices
- iv. communicate all or almost all the required information with a clear sense of audience and purpose to suit the context

評価規準

- 規準 A リスニング
- 規準 B リーディング
- 規準 C スピーキング
- 規準 D ライティング

評価方法

テスト
 テスト
 スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー
 作文、文法問題、エッセイ、テスト等

学習内容

6 年次では、自分の目的や興味関心に応じて自己の判断で授業を選択することができます。

【コミュニケーション英語Ⅲ演習】

科目名	6 コミュ英演習 1	授業名	基礎英語読解演習
-----	------------	-----	----------

大学入試問題を扱う問題集を教材とします。特に長文の内容読解を中心に、文法、和訳などの問題に取り組みます。

科目名	6 コミュ英演習 2	授業名	応用英語読解演習
-----	------------	-----	----------

『解釈する』こと『読む』ことに焦点を当てた様々な活動を行います。入試問題を題材とした長文演習では演習に加えて背景的知識(英語での講義)や、テーマに依存した語彙を増やすことで知識の引き出しを増やします。また、構文や英文解釈、和訳・要約の問題演習を通じて英文を解釈するスキルを身につけます。单元ごとに単語・構文のテストを行いますので徹底した復習を必須とします。

科目名	6 コミュ英演習 3	授業名	Advanced English Reading Seminar / Literature (Non-Fiction)
-----	------------	-----	--

Is the world getting better or worse? What are the forces driving change in the world? How can we influence them for the better? This class will examine the desire for power and its abuse, as well as concepts of legitimacy and nonviolence in history. Students in this class will read at least 2 books as well as excerpts and articles. Other work will include short essays, presentations, and group discussions.

資格取得・検定受験

将来に備えて、英語に関わる資格である英検・TOEFL・TOEIC・SAT・IELTS のいずれかを2回もしくは2種類以上受検すること(種類は問わない)を推奨します。

外国語科 6 学年 <英語表現Ⅱ演習>

6 年を通した目標

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語能力全般の伸長をめざします。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。

6 学年の目標/伸ばしたい力

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、自分の考えなどを的確に書く能力を一層伸ばすとともに、英語で表現しようとする積極的な態度を育てることを目指します。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。

At the end of phase 5, students should be able to:

Criterion A: Communicating in response to spoken, written and visual text

- i. respond appropriately to spoken, written and visual text
- ii. engage in rehearsed and unrehearsed exchanges to share ideas on a range of topics of personal and global significance
- iii. express ideas, opinions and feelings, and communicate information in a wide range of situations
- iv. communicate with a sense of register, purpose and style.

Criterion B: Using language in spoken and written form

- i. write and speak using a range of vocabulary, complex grammatical structures and conventions; when speaking, use intonation and fluency
- ii. organize information and ideas; use a wide range of cohesive devices
- iii. use language to suit the context.

評価規準

観点A コミュニケーション
観点B 言語の使用

評価方法

スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー、エッセイ
作文、文法問題、エッセイ、テスト等

学習内容

6 年次では、自分の目的や興味関心に応じて自己の判断で授業を選択することができます。

【英語表現Ⅱ演習】

科目名	6英表Ⅱ演習1	授業名	基礎英文法・英作文演習
-----	---------	-----	-------------

文法を確認すると共に、和文英訳・整序問題等の大学入試にも役に立つ問題練習に取り組みます。問題集を中心に授業を進めます。

科目名	6英表Ⅱ演習2	授業名	応用英文法・英作文演習
-----	---------	-----	-------------

英作文を中心に演習を行います。毎回の授業には予習・課題に取り組んだ上で臨んでもらいます。可能な限り到達点をはかる確認を行い、評価をしていくつもりです。文法を確認しながら大学入試に役立つ問題に取り組みます。和文英訳に役立つ語彙や構文の増強を図ります。

科目名	6英表Ⅱ演習3	授業名	Advanced English Output Training
-----	---------	-----	----------------------------------

This class will cover a broad range of digital text types, including articles, YouTube channels, podcasts, ads, and memes. We will analyze the texts and imitate their techniques, producing our own versions.

資格取得・検定受験

将来に備えて、英語に関わる資格である英検・TOEFL・TOEIC・SAT・IELTS のいずれかを 2 回もしくは 2 種類以上受検すること（種類は問わない）を推奨します。

6か年を通した目標

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語能力全般の伸長をめざします。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。

6学年の目標/伸ばしたい力

Become a self-motivated, life-long learner

Proactively seek out a tutor to help design a course of study

Give account of progress on set course of study and/or revise it regularly

評価規準

観点 (Criterion) A:
Knowledge, Concepts and Personal Engagement with Learning

観点 (Criterion) B:

Test-taking Language, Skills and Improvement

評価方法 Assessment

Students will organize their application process, write essays, and work on other such preparation for university and scholarship applications.

学習内容

「College Prep」は、6年次で開講される科目「国際B」の中から選択できます。

【 国際 B 】

科目名	国際B	授業名	College Prep
-----	-----	-----	--------------

This course will prepare students who wish to go abroad for university.

国際教養 6 学年 <国際 A> ソーシャルアクション概論

目標/伸ばしたい力

国際教養の目標は以下のとおりである。

1. 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けて、多様な文化・社会の在り方やそこで生きる人々及び様々な現象について理解を深める。また、課題解決のための方法について知る。
2. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題から問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査のために様々な方法を実践したり、得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことについて根拠を明らかにしてまとめ、表現し、異なる文化・背景を持つ他者と共有してディスカッションする力を身に付ける。
3. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題の解決に主体的・協働的に取り組むとともに、多様な文化・背景を持つ他者と互いのよさを生かしながら、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

このうち、国際 A 「国際協力と社会貢献」では、以下の 3 点を目標とする。

- ①国際協力や社会貢献（ボランティア・寄付など）に関する様々な知識と理解を深める。
 - ②国際協力や社会貢献（ボランティア・寄付など）を通して、現代社会が抱える課題について把握する。
 - ③市民として「国際協力」「社会貢献（ボランティア・寄付など）」の役割と力を認識し、活用できるようになる
- 上記 3 点を通して、自身と「国際協力」「社会貢献」の関わり方を認識し、今後のキャリア形成に活かすことを期待する。

評価規準

- 適切なテーマや課題をみずから見いだすことができるか
- 周囲と連携してテーマや課題を深めることができるか
- 講義内容・他者の意見をふまえてたしかな根拠に基づく意見やアイデアを提示できるか

評価方法

- 授業後のふりかえりレポート
- 学期ごとのレポート

※ペーパーテストはありません。

学習内容

講座の概要：

1 学期	日本の ODA 政策、JICA の役割、国際協力 NGO について理解を深め、「日本の国際協力と支援」について自身の意見・アイデアを表明する。
2 学期 3 学期	個人としての社会貢献のあり方や可能性について、ソーシャルセクター・寄付・クラウドファンディング・ふるさと納税・コミュニティ財団など様々なテーマを通して深めて行く。 UnitPlan 例 Unit 社会貢献に関する現代日本の意識 Unit 非営利組織はなぜ必要か Unit 社会変革とお金の使い方①寄付の可能性 Unit 社会変革とお金の使い方②寄付の集め方 Unit 企業の社会貢献とは Unit 社会貢献とキャリア 同時に、複数の非営利組織等と協力・連携し、「高校生ならではの」非営利組織の評価軸を作成、講座で合意を得られた組織に実際の寄付を行う。 それらの資金に関しては、クラウドファンディングを含めたファンドレイジングを実施（予定）。

多くの非営利組織や団体等の協力を得て実施する講座のため、**責任を持って 1 年間学び、積極的に講座に貢献できることが受講の必須条件。**

講座参考資料：『ODA 白書』（外務省）、『JICA 年次報告書』（JICA）、『寄付白書 2017』（日本ファンドレイジング協会）、『ファンドレイジングが社会を変える』（三一書房）、『社会を変えるお金の使い方』（英治出版）、『NPO の教科書』（日経 BP 社）他

国際教養 6 学年 <国際 B> College Prep

目標/伸ばしたい力

The aims of “College Prep” course is to enable students to:

1. discuss future career
2. researching about universities
3. plan how to write application essays, editing them and finishing them up
4. exam test types and its styles

評価規準

- Criterion A
Knowledge, Concepts and Personal Engagement in Learning
- Criterion B
Test-Taking Language, Skills and Improvement

評価方法

- Past tests (SAT, AP etc)
- Essays

No paper-based tests
Students will submit their application essays that they have been writing in class for grading.

学習内容

Students will prepare to apply for universities abroad from various aspects.

Students will receive individual support and feedback thought the year.

(The content of the class may change according to class size.)

- Discussing future career
- Researching about universities
 - thinking about which universities to apply for, going over requirements
- Planning how to write application essays, editing them and finishing them up
- Examining test types and its styles
 - explanations on how tests are run, practicing how to take the test by using past-tests

国際教養 6 学年 <国際 B>ファシリテーション実践

目標/伸ばしたい力

国際教養の目標は以下のとおりである。

1. 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けて、多様な文化・社会の在り方やそこで生きる人々及び様々な現象について理解を深める。また、課題解決のための方法について知る。
2. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題から問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査のために様々な方法を実践したり、得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことについて根拠を明らかにしてまとめ、表現し、異なる文化・背景を持つ他者と共有してディスカッションする力を身に付ける。
3. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題の解決に主体的・協働的に取り組むとともに、多様な文化・背景を持つ他者と互いのよさを生かしながら、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。
このうち、国際 B「ファシリテーション実践」では、以下の 3 点を目標とする。

講座の目的：

- ①司会や進行役ではない、ファシリテーションの知識とスキルを獲得する。
- ②自分なりのファシリテーションを見い出す。
- ③講座で学んだことをふまえてワークショップを作成・実践し、実社会で使える能力として身につける。

評価規準

- ファシリテーションの基礎知識を身につけられるか
- ファシリテーションの技術を実践できるか
- 講座中に、ファシリテーションやファシリテーショングラフィックを積極的に担うことができるか
- 講座の学びをふまえたワークショップを作成・実施できるか
- たしかな根拠に基づく意見やアイデアを提示できるか

評価方法

- 授業後のふりかえりレポート
 - 学期ごとのレポート
 - オリジナルのワークショップ作成・実践
- ※ペーパーテストはありません。

学習内容

講座の概要：

1 学期	ファシリテーションの基礎 知識・テクニック&体験 ファシリテーションとは何なのか、またそのスキルについて体験しながら学びます。 様々なトピックスをとりあげ、F と FG をひたすらトレーニング。
2 学期	ファシリテーションの実践 チームに分かれて、ワークショップを作成し実施。
3 学期	ファシリテーションをどう活かしていくか 年間のふりかえり、ファシリテーションを自分の中でどう位置づけてつかっていくか。

責任を持って 1 年間学び、積極的に講座に貢献できることが受講の必須条件。

講座参考資料：『ファシリテーション革命』（岩波アクティブ新書）、『チーム・ダーウィン』（英治出版）、『対話する力』（日本経済新聞出版社）、『ワールドカフェをやるう』（日本経済新聞出版社）他

国際教養 6 学年 <国際 B>応用数学

目標/伸ばしたい力

国際教養の目標は以下のとおりである。

1. 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けて、多様な文化・社会の在り方やそこで生きる人々及び様々な現象について理解を深める。また、課題解決のための方法について知る。
2. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題から問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査のために様々な方法を実践したり、得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことについて根拠を明らかにしてまとめ、表現し、異なる文化・背景を持つ他者と共有してディスカッションする力を身に付ける。
3. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題の解決に主体的・協働的に取り組むとともに、多様な文化・背景を持つ他者と互いのよさを生かしながら、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

このうち、国際 B 「応用数学」では、

- ▶ 現代社会において利用・活用される数学
- ▶ これからの社会・時代に求められる数学
- ▶ 様々な意思決定場面に有効である数学

等を学ぶことを通して、数学的リテラシーを育むとともに、社会的諸問題に対する数学的なアプローチ・方法の考え方や見方および姿勢・態度を身に付けることを目標とします。

評価規準

評価方法

- 振り返りシート
 - 授業内演習
 - レポート課題
- などを内容に合わせて課し、総合的に評価します。

学習内容

「推測統計」「行列」のいずれかを生徒の実態に応じて扱います。

●推測統計

- ▶ 確率分布（二項分布，ベルヌーイ分布，正規分布など）
- ▶ 推定（区間推定の意味と方法）
- ▶ 仮説と検定（統計的仮説検定の意味と方法）

●行列

- ▶ 行列に表す（行列とその加法・減法）
- ▶ 行列を使う（行列の積とその性質）
- ▶ 行列を探る（行列の性質と逆行列）

国際教養 6 学年〈国際 B「文学探究」〉

目標/伸ばしたい力

国際教養の目標は以下のとおりである。

1. 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けて、多様な文化・社会の在り方やそこで生きる人々及び様々な現象について理解を深める。また、課題解決のための方法について知る。
2. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査のために様々な方法を実践したり、得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことについて根拠を明らかにしてまとめ、表現し、異なる文化・背景を持つ他者と共有してディスカッションする力を身に付ける。
3. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題の解決に主体的・協働的に取り組むとともに、多様な文化・背景を持つ他者と互いのよさを生かしながら、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。
このうち、国際 B「文学探究」では、近代における日本および海外の文学テキストや絵画・写真・映画等を題材として、作品そのものやその背景にある社会的歴史的な文脈を探究することで、国際理解・人間理解を深める。

1. さまざまなスタイル（文体）およびジャンルからの多様な近代のテキストを知る。
2. 個々のテキストを分析し、関連性のある他のテキストと結びつけることができる。
3. 表現力（口述および記述によるコミュニケーションを含む）および創造力を養う。
4. テキストが書かれ、受け取られた社会的・歴史的「文脈」を理解する。
5. テキストの学習を通じて、文化的背景が異なる人々のものの見方や、それらの見方がどのように意味を構成しているかを認識する。
6. 言語と文学に対して、生涯にわたって関心や興味を持つ。

【伸ばしたい力】

1. 知識と理解
 - ・ジャンルや時代を代表するものとしての個々の文学作品の知識と理解、およびそれらの相互の関係性を示す。
 - ・文学の中で文化的価値が表現されている方法についての理解を示す。
 - ・作品が書かれる、受け取られる（読まれる／見られる）文脈の重要性に対する認識を示す。
 - ・関連性のある事柄を根拠として、考えを立証し、それが正しいことを示す。
2. 分析、統合および評価
 - ・言語、構成、技法（テクニク）、スタイル（文体）を分析する能力を示し、それらが読者にどのような効果を与えているかを評価する。
 - ・学習した文学のテキスト、又は初めて読む文学のテキストについて、独自の文学批評を展開する能力を示す。
 - ・文学の技法（テクニク）の効果や、スタイル（文体）と意味との関連性について詳細に分析し、細部にわたって論じる能力を示す。
3. 適切な言葉遣いおよびプレゼンテーションスキルの選択と活用
 - ・言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）を効果的に選択し、記述と口述の両方で考えを明確かつ流暢に表現する能力を示す。
 - ・文学の学習に適切な用語と概念を自在に使いこなす能力を示す。
 - ・口述と記述の両方で、理路整然とした議論を展開する能力を示す。
 - ・文学作品について、一貫性のある詳細な論評（コメンタリー）を書く能力を示す。

評価規準

* 国語科の科目の規準に倣って設定します。

評価方法

授業中の発言・発表・傾聴・創作・ワークシートへの記述などを総合して評価する。

学習内容

単元ごとの探究的な問いに沿ってディスカッションし、振り返りをまとめる。また必要に応じて創作活動も行う。

「文学とは何か／文学的であるとはどういうことか」を年間を通じてテーマとし、「文学と〇〇」という小テーマを設けて、探究的に学習を進める。

単元例

- ・文学と映画
- ・文学と差別
- ・文学と歴史
- ・文学と非文学の間 等

国際教養 1～6 学年 <国際 1～6>

6か年を通した目標

1. 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けて、多様な文化・社会の在り方やそこで生きる人々及び様々な現象について理解を深める。また、課題解決のための方法について知る。
2. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題から問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査のために様々な方法を実践したり、得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことについて根拠を明らかにしてまとめ、表現し、異なる文化・背景を持つ他者と共有してディスカッションする力を身に付ける。
3. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題の解決に主体的・協働的に取り組むとともに、多様な文化・背景を持つ他者と互いのよさを生かしながら、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。
ここで国際理解・人間理解・理数探究とは、現代的な諸課題を見る3つの視点である。
 - 国際理解…自国の文化・他国の文化を含めて、多様な文化・社会の在り方について理解を深める。
 - 人間理解…社会を支える一員として、学校・地域・国・世界に生きる人々の生き方や社会の在り方について考え、思いやりの心を身につける。
 - 理数探究…身の回りや世の中の様々な事象を科学的視点から捉え、社会に活用していく方法について考える。

各学年の目標/伸ばしたい力

- 〈1年〉様々な事柄の「つながり」を意識して学習する。異なる文化・環境に生きる人々に関心を持ち、それらに對しての耐性を養う。
- 〈2年〉様々な人が生きている社会と自分との関わりを客観的にとらえ、他者との適切なコミュニケーションの方法を身につける。
- 〈3年〉様々な現代社会の課題について情報を集め、自分たちとその課題の関わりについて考え、異なる文化・背景を持つ他者とも情報や意見を共有する。
- 〈4年〉自分なりの視点で現代社会の課題を見つけ、調査・探究し、現実の社会に自らアプローチする。
- 〈5年〉異なる文化・環境を持つ他者と課題を共有し、英語でディスカッションすることができる力を身につける。
- 〈6年〉社会にとって意義ある問いを立て、それに対して何らかのアクションを起こすことを目指す。また、母語でも外国語でも、異なる文化・背景を持つ他者と自分たちの社会の課題について対話し、相互協力体制を築けるような姿勢・力を身につける。

MYP 評価規準

評価方法

総合的な学習の時間は MYP の課程内ではありませんので、該当する内容はありません。

各学年の国際教養の時間、国際教養群に入っている各教科の科目によって多様な評価が行われます。

文部科学省 中学校・高等学校学習指導要領における教科の観点

各学年で開設されている「国際○」の時間は、学習指導要領では「総合的な学習の時間」（前期課程）、「総合的な探究の時間」に対応します。総合的な学習/探究の時間では、数値による評価・評定は行われず、記述による評価がなされます。

国際教養群に入っている各教科の科目に関しては、前期・後期とも各科目で観点を設け、数値による評価・評定を行っています。

（規準例）

- LE（外国語科）：規準 A 知識と概念／規準 B プレゼンテーション
- Global issues：規準 A 知識と理解／規準 B 調査研究／基準 C コミュニケーション／基準 D 批判的思考
- 英語以外の言語：規準 A リスニング／基準 B リーディング／基準 C コミュニケーション／基準 D 言語の使用
- 国際 B（College prep）：規準 A Knowledge, Concepts and Personal Engagement with Learning
／基準 B Test-taking Language, Skills and Improvement

国際教養群に含まれる科目・学習内容

- 1年 「国際1」, 「Learning in English 1」
- 2年 「国際2」, 「Learning in English 2」
- 3年 「国際3」, 「Pre Immersion」, 「Learning in English 3」
- 4年 「MYP Personal Project/課題研究」, 「Global Issues」, 「英語以外の言語」
- 5年 「課題研究（総合的な探究の時間）」「Global Issues」「英語以外の言語」
- 6年 「課題研究」「国際 A（講座：ソーシャルアクション概論）」「国際 B（講座：文学探究・講座：応用数学・講座：College Prep・講座：ファシリテーション実践）」

上記の科目・総合的な学習の時間の他に、1・3・5年のワークキャンプⅠ・Ⅱ（国内）・Ⅲ（海外）・各学年や教科で実施されるフィールドワークも学習内容に含まれます。また、1年から3年では、4年次においてPPを完成させるためのスキルを身に付ける学習活動をします。さらに、5・6年の「課題研究」は、学年の枠を越えた形態で探究活動を行います。

総合的な探究の時間・4/5/6年【国際4/5/6各1単位】

Period for Inquiry-Based Cross-Disciplinary Study

6か年を通した目標/養いたい力	
<p>「国際教養」の目標は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けて、多様な文化・社会の在り方やそこで生きる人々及び様々な現象について理解を深める。また、課題解決のための方法について知る。 2. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題から問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査のために様々な方法を実践したり、得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことについて根拠を明らかにしてまとめ、表現し、異なる文化・背景を持つ他者と共有してディスカッションする力を身に付ける。 3. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題の解決に主体的・協働的に取り組むとともに、多様な文化・背景を持つ他者と互いのよさを生かしながら、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。 	
国際4/5/6の目標/伸ばしたい力	
<p>上記の通りですが、各学年ではそれぞれ特に次のことを目指します。</p> <p>〈4年生〉自分なりの視点で現代社会の課題を見つけ、課題について調査・探究し、現実の社会に自らアプローチする。</p> <p>〈5年生〉異なる文化・環境を持つ他者と課題を共有し、英語でディスカッションすることができる力を身につける。</p> <p>〈6年生〉社会にとって意義ある問いを立て、それに対して何らかのアクションを起こす。</p>	
〈国際4〉Personal Project MYP 評価規準	評価方法
<p>〈Personal Project〉合計 24 点満点・7 段階</p> <p>規準 A 計画(8 点) 基準 B スキルの応用(8 点)</p> <p>規準 C 振り返り(8 点)</p>	<p>Personal Project はプロポーザル、プロセスジャーナルのエビデンス、報告レポート(9 月提出)、完成成果物(9 月提出)、自己評価(9 月提出)、出席状況・取り組み状況を材料として評価します。</p>
〈国際4/5/6〉文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
<p>文部科学省の定める3つの観点は以下のような方法で評価を行います</p>	
知識・技能	<p>研究計画書・研究経過報告書・論文・行動観察・研究ノート・振り返りなどを用いて、各観点に応じて、以下の視点から評価します。なお総合的な探究の時間は記述での評価となります。</p> <p>探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解しているか。</p>
思考・判断・表現	<p>現代的な諸課題から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現しているか。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしているか。</p>
学習内容	
<p>〈国際4〉Personal Project</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MYPの学習の集大成として Personal Project に取り組む。 ・自らの興味関心に沿って社会にどう役立つのかを考えて課題を設定し、学習目標と成功規準を作成した上で、自分の力で調査し、分析し、成果物や報告レポートを仕上げ、プロジェクトという形にする。 <p>〈国際4 後半/5/6〉総合的な探究の時間（課題研究）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校における探究学習の集大成として、2年間(実際には4年生後半から)かけて「課題研究」に取り組む。 ・自分の問題意識に照らして研究課題を設定し、適切な研究方法で分析・考察を進め、論文にまとめる。 <p>〈国際5〉海外ワークキャンプ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校独自の学習領域「国際教養」の集大成として、海外で異文化に触れ、多様な社会・文化のあり方を知るとともに、自国の文化を再認識する。 ・海外で多様な文化に生きる人々と現代的な課題について共有し、議論する力を伸ばす。 	
備考	
<p>4年生の「総合的な探究の時間」(前半は Personal Project、後半は課題研究)は、生徒全員が履修します。</p> <p>5年生・6年生の「総合的な探究の時間」(課題研究)は、一般生かつ人文科学・社会科学分野の課題研究に取り組む生徒は全員が履修します。一般生かつ自然科学分野の課題研究に取り組む生徒は科目「理数探究」を2年間にわたって必ず履修します。</p>	